

日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌 [アクエドクト]

acueducto

La revista española en Japón



GRATIS/第7号

30- noviembre - 2011

www.acueducto.jp



Asociación Cultural Española
スペイン文化協会

特集

電車で行けるスペイン

志摩スペイン村大解剖!



ご挨拶

スペイン情報誌「acueducto」第7号をお届け致します



20世紀前半の世界は第一次世界大戦や第二次世界大戦など多数の戦争を乗り越えて、20世紀後半は平和と繁栄の時代を享受し、21世紀はさらに豊かな時代の到来を誰もが期待して止まなかったが、事態はそれに反して、世界は今や未曾有の経済危機に直面して、暗雲が垂れ込めている。

このような状況の中で、スペインから朗報が届いた。すでに新聞各紙で報道されているが、スペインのアストゥリアス皇太子財団により、人類の発展への貢献を称える2011年のアストゥリアス皇太子賞の共存共栄部門に、東日本大震災にともなう福島第一原発事故後の対応に従事した作業員ら「フクシマの英雄」が選出されたのである。

アストゥリアス皇太子賞は1980年にオビエド市で設立され、科学、技術、文化、社会の分野において国際的に活躍し、人類に貢献していると見なされた個人、機関、組織に対して贈られる。これまでにアストゥリアス皇太子賞を受賞した日本人には、緒方貞子・元国連難民高等弁務官や向井千秋・女性初の宇宙飛行士らがいる。

本誌もまた「フクシマ」で編集されているが、同じフクシマでも大阪のフクシマである。震災当時は、間違って編集部にも多数の見舞い状が届けられた。それはともかく、世界に類のない大震災と原発事故のために闘った数多くの日本人の勇気や自己犠牲の精神が、スペインのノーベル賞とも呼ばれるアストゥリアス皇太子賞の対象になったことは、この上なく喜ばしいことだ。

しかし、それにも増して、自国が経済危機に直面するさ中にもかかわらず、世界に目を開いて人類の発展に貢献した人びとを探し求め、その業績を称える財団の英断に大きな拍手を送りたい。

坂東省次

坂東省次 ばんどうしょうじ/ Shoji Bando
京都外国語大学スペイン語学科長・教授。
京都セルバンテス懇話会代表。
専攻はスペイン語学、日西交流史。
近著に『スペインを訪れた作家たち(沖積舎)』がある。

Les ofrecemos el número 7 de la revista ACUEDUCTO

En el mundo, durante la primera mitad del siglo XX, ocurrieron numerosas contiendas ejemplificadas por dos grandes guerras. En la segunda mitad del siglo pasado, muchos países gozaron de paz y de prosperidad, por lo tanto todos deseamos que el presente siglo XXI sea una época aún más opulenta. Pero podemos decir que el mundo actual no atraviesa su mejor momento debido a la crisis económica inaudita que sufren no pocos países.

Bajo tal circunstancia, ha llegado desde España una buena noticia. Como ya se ha anunciado a través de varios medios de comunicación, los operarios de la central nuclear de Fukushima, llamados “héroes de Fukushima”, han recibido el Premio Príncipe de Asturias otorgado por la Fundación Príncipe de Asturias de España. Esta organización les ha honrado en la categoría de “Concordia” por sus “contribuciones a la humanidad”, apreciando su rápida y valiente reacción tras el accidente en la central, provocado por el gran terremoto y tsunami en el este de Japón.

Dicho premio nació en Oviedo en 1980 y son galardonados anualmente a quienes desplieguen grandes actividades en los campos de ciencias, tecnología, cultura y ciencias sociales,

o contribuyan al desarrollo de la humanidad. Hasta entonces, Sadako Ogata, la ex-Alta Comisionada de la Organización de las Naciones Unidas para los Refugiados, y Chiaki Mukai, primera astronauta japonesa, fueron los principales nipones premiados.

La presente revista se edita también en “Fukushima”, aunque no es “Fukushima” en el este de Japón, sino un barrio en Osaka. En las primeras semanas después del terremoto, nos enviaron numerosas cartas de consuelo al consejo de redacción, equivocándose de lugar. De todas maneras, la valentía y el espíritu de abnegación de los japoneses que lucharon por evitar el agravamiento del accidente nuclear han sido valorados enormemente en España con el Premio Príncipe Asturias que se considera como el “Nobel de España”, hecho que nos agrada enormemente.

A pesar de que España se encuentra en plena recesión económica, la Fundación Príncipe de Asturias cuenta con una visión amplia y alaba a quienes contribuyen al desarrollo de la humanidad en el mundo. Por lo tanto, quisiéramos aplaudir y agradecer esa actitud firme de la fundación.

Shoji Bando
Director de ACUEDUCTO

ESPECIAL 特集	4
電車で行けるスペイン 志摩スペイン村大解剖!	
VIAJE 旅	12
Alma Invencible Región de Murcia, cultura, historia y compras en el Mediterráneo	
MÚSICA 音楽	18
Sounds from Spain in Tokyo 2011	
GASTRONOMÍA グルメ	20
TANKA —最も日本的なスペインワイン—	
HISTORIA 歴史	22
DVD『難破船の残した友情』～DVD Del naufragio a la amistad～	
ESPAÑOL スペイン語	24
はじめてのスペイン語講座 第7回 動詞 GUSTAR スペインで話されているスペイン語以外の言語 スペイン語講座(VII) 推量の表現について	
ARTE 芸術	30
El Museo Tranquilo	
VARIOS その他	32
Los Héroes de Fukushima 『めがねってマノリット』作者、エルビラ・リンド氏来日 日本で活動するスペイン関連クラブのご紹介 ～第5回 立命館大学フラメンコサークル Sonsonete～ スペインのお勧めバー/レストラン	
LIBRO 本	36
スペインサッカー関連書籍のご紹介	
LITERATURA 文学	38
騎士道物語を中世スペイン語の原典で楽しむ	
ENSAYO エッセイ	41
マドリッドの夜(7)	
EVENTOS イベント	42

Colaboradores:



スペイン情報誌 acueducto

Director:
Shoji Bando 坂東省次

Editor:
Alejandro Contreras
アレハンドロ・コントレラス

Maquetación y diseño:
Ayako Wakita 脇田絢子

Colaboradores:
Yo Kawanari 川成洋
Kuniyoshi Nakai 仲井邦佳
Kaname Ikemoto 池本かなめ
Elena Contreras
エレナ・コントレラス
Mikel Berradre
ミケル・ベラデレ
Juan José López
フアン・ホセ・ロペス
Daniel Arrieta
ダニエル・アリエタ
Abel Álvarez
アベル・アルパレス

ADELANTE Co., Ltd
2FL. Chiyoda Bldg. West Annex
2-5-8 Umeda Kita-ku Osaka
530-0001 Japón

有限会社アデランテ
〒530-0011
大阪市北区梅田2-5-8
千代田ビル西別館2F
Tel/Fax 06-6346-5554
email: info@acueducto.jp
www.acueducto.jp

本誌の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。本誌の内容および広告に関しては、発行元の責任の限りではありません。



INDICE

1994年4月、三重県の伊勢志摩国立公園にスペインをテーマとする複合リゾート施設「志摩スペイン村」は誕生しました。

当時の日本は、経済的な豊さとは裏腹に、時間に追われる競争社会の中で、ゆとりや人間的な大らかさを忘れがちであると言われていました。

「ゆとり」や「大らかさ」、「人生を楽しむ達人」といったイメージを持つスペインの国や人々は、日本人の憧れでもありました。

そんなスペインの魅力を日本人が体験できる場所として、スペインをテーマとするリゾート施設が誕生したのです。

また、伊勢志摩はスペインの風土と似ている点があります。古くから信仰の対象とされる場所やその参詣道、リアス式と呼ばれる入り組んだ特徴的な海岸線、燦々と輝く情熱的な太陽や豊かな青い海、深い緑の樹木を育む山々など、自然の魅力にもあふれています。

このような時代的背景と地理的要因により誕生した志摩スペイン村。その魅力の一端をご紹介します。



**電車で行けるスペイン
志摩スペイン村大解剖!**



空からみた志摩スペイン村(航空写真)



海が見える露天風呂(ひまわりの湯)



テーマパーク内風景(シベレス広場)

複合リゾート施設としての志摩スペイン村は、テーマパーク「パルケエスパーニャ」、「ホテル志摩スペイン村」、天然温泉「ひまわりの湯」で構成されています。

テーマパーク「パルケエスパーニャ」では代表的なスペインの街並みが数多く再現され、多くのスペイン人エンターテイナーによる華麗なショーを連日上演されています。

南アンダルシア地方の街並みをイメージした「ホテル志摩スペイン村」では、地元の新鮮な魚介類を使ったスペイン料理をはじめ、数々のおもてなしが用意されています。

天然温泉「ひまわりの湯」は海を眺めながら入浴できる露天風呂や大浴場、サウナなど、アルカリ性単純温泉の泉質が訪れる人を和ませています。



ムーンライトフィナーレ(花火)

パレード 「エスパーニャカーニバル」

パルケエスパーニャを紹介する時に、欠かせないのが本国でのオーディションを経て来日したスペイン人エンターテイナー達の繰り広げるエンターテイメントです。

パレード「エスパーニャカーニバル」には数多くのスペイン人達が、あでやかな衣装を身にまとって登場します。

バレンシアの火祭りに登場するファージャ人形をモチーフにしたフロート(山車(だし))の行進に合わせ、スペイン人達が陽気なダンスを踊っています。パレードは途中で観客を巻き込んで一緒に踊ったり、記念写真付きでパレードに参加することもできます。

また、ナイト営業の実施されるゴールデンウィークや夏休みには、キラキラ輝くイルミネーションで装飾されたナイトパレードが行われ、夜空を華麗に彩る花火も楽しめます。



スペイン人エンターテイナー達による楽しいパレード
「エスパーニャカーニバル」



ナイトパレード

フラメンコショー 「アル アンダルス」

スペインといえば忘れることのできないフラメンコ。パルケエスパニーヤでも、スペイン人ダンサーによる情熱的なステージが展開されています。

2011年は「アル アンダルス」を上演。アラブ・イスラム文化の影響を大きく受け「アル アンダルス」と呼ばれた中世スペイン。従来のフラメンコにアラブの香りがミックスされさらにエキゾチックに表現されます。「アル アンダルス」の上映は2012年1月29日まで。2012年3月17日から新しいフラメンコショーを上演すべく演出、振り付けなど新しい構成を検討しています。

演出、振り付け、出演にいたるまですべてスペイン人によるフラメンコショー。日本国内でこれだけ多くのスペイン人ダンサーが出演するショーはこの志摩スペイン村にしか存在しません。本場スペインで踊りを習得したダンサー達、まさに本物を間近に感じられます。

ショーの行われる「カルメンホール」には、日本とスペインの同時代の象徴的な絵画も陶板画で展示されています。1992年に開催されたセビリア万博の日本館に展示していたものがそのまま移されており、開演までの待ち時間に陶板画を鑑賞しながら日本とスペインの文化の比較をすることもおもしろいでしょう。



スペイン人エンターテイナー達が登場するのはパレード、フラメンコだけではなく。

旅芸人の一座が繰り広げる陽気で楽しいストリートミュージカル「アブラウソ!」やジャグリングなどの大道芸を披露するストリートパフォーマンスが行われています。



フラメンコショー「アル アンダルス」

本格的なスペイン料理が楽しめる、レストラン「アルハンブラ」店内



スペイン料理

パルケエスパーニャには本格的なレストランから手軽に楽しめるファストフードまで、様々な店舗があります。

レストラン「アルハンブラ」では、パエリアなどスペイン料理をはじめ本格的な欧風料理を提供。スペインで修業したシェフによる地元伊勢志摩の新鮮な食材を使った料理や、スペインで親しまれているスイーツも楽しめます。また、期間限定で屋外での大鍋を使ったパエリアの実演販売も行われています。



ポーセリンギャラリー「リヤドロ」

ショップ

テーマパークの中には、ここでしか手に入らないグッズやスペイン直輸入の雑貨類、工芸品など素敵な品々がたくさん。

スペイン、バレンシアの兄弟が生んだポーセリン（磁器）アート「リヤドロ」。実物スケッチから本制作にいたるまで、すべて手作りで行われ、その精巧さとやさしい色合い、今にも動き出しそうな表情はため息が出るほど。ポーセリンギャラリー「リヤドロ」では、リーズナブルな商品から限定品まで、多彩にそろっています。

陶器工房「カンタロ」では、スペインの様々な地方で作られた個性あふれる陶器の数々が集められています。店内には絵付け体験ができるボタリーペインティングもあり、世界にひとつしかない自分だけのオリジナル作品を作ることができます。

菓子工房「ボルボロン」では、スペインで幸せのお菓子と呼ばれる「ボルボロン」を販売。ケーキ工房「バレンシア」では、バレンシアで有名なオレンジを使ったオレンジケーキが販売され、パルケエスパーニャのお土産として好評を博しています。

パールギャラリー「マルガリタ」では地元産の真珠を使ったアクセサリーやキャラクター商品も販売しています。



絵付け体験ができる陶器工房「カンタロ」

キャラクター

パルケエスパーニャのキャラクターは、セルバンテスのドンキホーテ物語をモチーフにしています。勇気と冒険心あふれるドンキホーテ、いつも優しくドンキホーテを支えるサンチョパンサ、ドンキホーテあこがれのダルシニアなどおり、ミュージカルショーやお土産のお菓子のデザインなど色々な場面に登場しています。



パレードを盛り上げるキャラクターたち

全長815mの本格的マウンテンコースター
「グランモンセラー」



スペインの歴史や文化について知る
「ハビエル城博物館」



ドン・キホーテとサンチョパンサ像



サンタクルス通り



エスパーニャ通り



町並み

スペインの建築がたくさん再現されているパルケエスパーニャ。正面出入り口エントランスに立っている像は、マドリードのドンキホーテとサンチョパンサ像をモチーフにしています。中に入るとバルセロナのランブラス通りをイメージしたエスパーニャ通り、そしてマドリードのシベレス広場やマヨール広場が再現されています。

奥に進むとコスタ・デル・ソルの中心地、マラガをイメージしたコロンプス広場、アトラクションがたくさんあるフィエスタ広場にはゲエル公園のようなガウディ建築のオブジェやモザイク模様がちりばめられています。

コロンプス広場



パルケエスパーニャ エントランス



マヨール広場



ゲエル広場

アトラクション

幅広い世代に人気の高い、スペインの歴史や文化を紹介する展示施設や様々なアトラクションもパークの大きな魅力の一つです。

フランシスコ・ザビエルが生まれた当時の建物を忠実に再現したハビエル城博物館。中でも世界で3つしかない「アルタミラ洞窟の壁画」の実物大レプリカは必見。その他、旧石器時代から現代までスペインの歴史を紹介するコーナー、プラド美術館に代表されるスペイン絵画を紹介するコーナー、日西交流を映像で紹介するコーナー、スペインの民族衣装や工芸品を紹介する展示などがあります。

スペインとフランスの国境にあるピレネー山脈をモチーフにしたインバーテッドコースター「ピレネー」、バルセロナ近郊のモンセラー山を再現し、その周囲を疾走するジェットコースターや急流すべり、ガウディ建築のようにモザイクをあしらったメリーゴーランド、周囲をゆったりと巡るフィエスタトレインなど、小さな子どもから大人まで楽しめるアトラクションがたくさん。

屋内型アミューズメントゾーン「ピエロ・ザ・サーカス」には雨の日でも楽しめる施設が多くそろっています。



アルタミラ洞窟の壁画



開放的なパティオ(ホテル志摩スペイン村)

ホテル志摩スペイン村

パルケエスパーニャに隣接するホテル志摩スペイン村。明るい開放的なパティオ(中庭)には季節の花が咲き、イスラム文化の影響を受けたコルドバのメスキータをイメージしたロビーには、アラベスク模様や馬蹄形のアーチ、テラコッタのタイルがあり、散歩するだけで異国情緒が味わえます。ホテルでの食事も旅行の楽しみの一つ。日本料理のレストランもあります。

ひまわりの湯

「ひまわりの湯」は、雄大な自然に囲まれた天然温泉で、アルカリ性単純温泉の泉質が訪れる人をリラックスさせます。海を眺めながら入浴でき、温泉のみの日帰り入浴も可能。もちろん、ホテル志摩スペイン村宿泊者やパルケエスパーニャ入園者にはうれしい特典も。

グループホテル

周辺には志摩スペイン村オフィシャルホテルもあります。近鉄電車の終着駅、賢島には個性あふれる宿泊施設があります。

真珠の海「あご湾」を一望する高台に、志摩観光ホテルクラシックと志摩観光ホテルベイスイートが建っています。志摩観光ホテルクラシックは、由緒ある大人のリゾートホテル。志摩観光ホテルベイスイートは、全室スイートルームで新しいリゾートライフを提供。

プライムリゾート賢島は、白壁にオレンジ瓦の外観などスペインの雰囲気いっぱい。

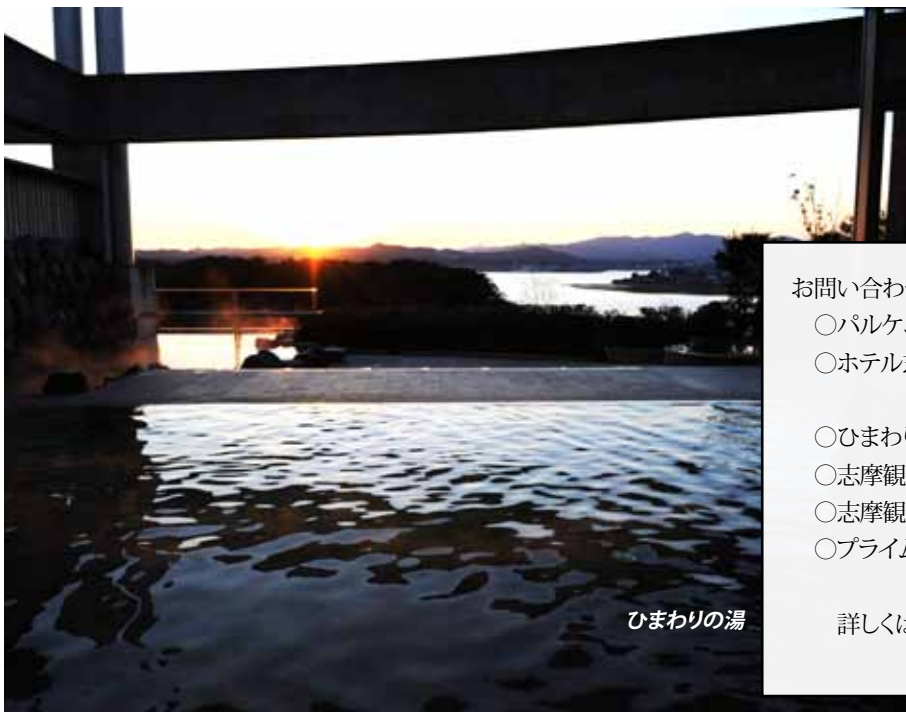
過去にはスペイン各州の紹介や、ドンキホーテ物語の朗読会やアマチュアフラメンココンテストなど、スペインと日本をつなぐ目的のイベントも実施されました。

フランスやイギリスといった他のヨーロッパ諸国とは一味ちがう「スペイン」。志摩スペイン村もスペインをテーマとすることで他のテーマパークとは一味ちがっています。

オープン以来17年で3,600万人もの利用者を迎えた志摩スペイン村。これからも志摩スペイン村は、日本とスペインの心・人・文化の架け橋でありたいと願っています。



メスキータをイメージしたロビーラウンジ(ホテル志摩スペイン村)



ひまわりの湯

お問い合わせは

○パルケエスパーニャテレフォンインフォメーション: ☎0599(57)3333

○ホテル志摩スペイン村: ☎0599(57)3511

☎0599(57)3500(予約直通)

○ひまわりの湯: ☎0599(57)3700

○志摩観光ホテルクラシック: ☎0599(43)1211

○志摩観光ホテルベイスイート: ☎0599(43)2111

○プライムリゾート賢島: ☎0599(43)7211(代表)

☎0599(43)7222(予約直通)

詳しくは、志摩スペイン村 ホームページをご覧ください。

<http://www.parque-net.com>

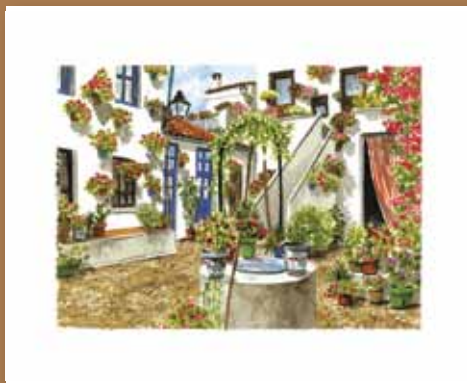
絵画ポスター

www.
adelante
shop.jp

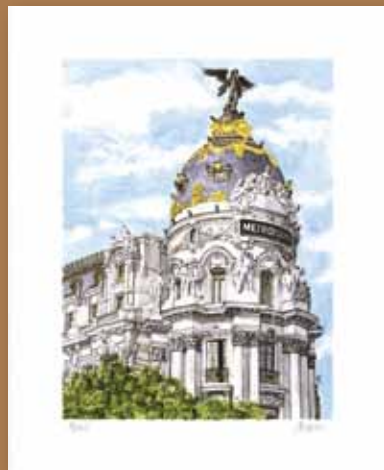
サイズ：29.6 X 23.9 cm 価格：各1,260 円



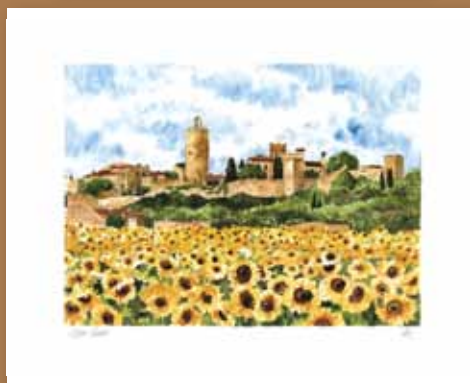
1



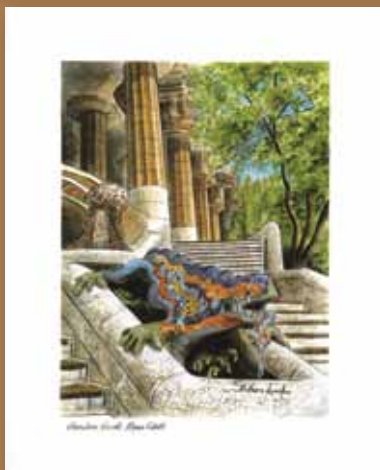
2



3



4



5



6

1. バルセロナ・サグラダ・ファミリア 2. アンダルシア地方・パティオ
3. マドリッド・メトロポリスビル 4. ひまわり畑
5. バルセロナ・グエル公園 6. マドリッド・マヨール広場

【お問合せ・ご注文は】

有限会社 ADELANTE

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-8 千代田ビル西別館 2F

TEL/FAX: 06-6346-5554 E-MAIL: info@adelanteshop.jp



スペインの語学学校

Madrid Plus
マドリッド・プルス

Calle Arenal, 21 - 6º . 28013 Madrid

マドリッドの中心部、プエルタ・デル・ソルからわずか2分のところに位置する語学学校『MADRID PLUS(マドリッド・プルス)』。校舎の主要部が20世紀初頭に建てられた美しい建物の最上階にあり、2つあるテラスからは素晴らしい眺めが広がっています。

経験豊かな熱意溢れる教師達による、コミュニケーションを重視したレッスンで楽しくスペイン語を学んでみませんか？

1週間のプチ留学から長期留学まで期間は自由に選べます。宿泊には、校舎と同じ建物に併設の学生寮、共同アパート、ホームステイ、またホテルなど様々な選択肢をご用意。

また、映画や演劇を観に行ったり、教師との食事会、展覧会に行くなど、様々なアクティビティが用意されているため、授業以外の時間も楽しく過ごしていただけます。

基本情報

創設	1990年
年間生徒数	500人程度
平均年齢	22歳(ハイシーズン) 28歳(オフシーズン)
学生の国籍	ドイツ、イタリア 他

コース

- 一般スペイン語コース
(言語と文化について学ぶコース)
- 週あたり10/20/30レッスン
- 1クラス最大10名
- その他様々なコースがあります
- ◎ ビジネススペイン語
- ◎ DELE対策コース
- ◎ プライベートコース 他

Aprender español en Madrid



世界中からやってきたクラスメートたちと楽しくスペイン語を学べます。

観光の見所がたくさんのマドリッド。友達になったクラスメートと出かけてみましょう。授業で習ったスペイン語を実践するチャンスです！



Madrid Plusへのご留学については、
【スペイン留学.jp】へお問合せ下さい！

【スペイン留学.jp】
スペイン・中南米への留学相談、
入学手続き 無料サポート
ホームページ: www.spainryugaku.jp
TEL/FAX: 06-6346-5554
E-mail: info@spainryugaku.jp

spain
ryu
ga
ku 留学.jp

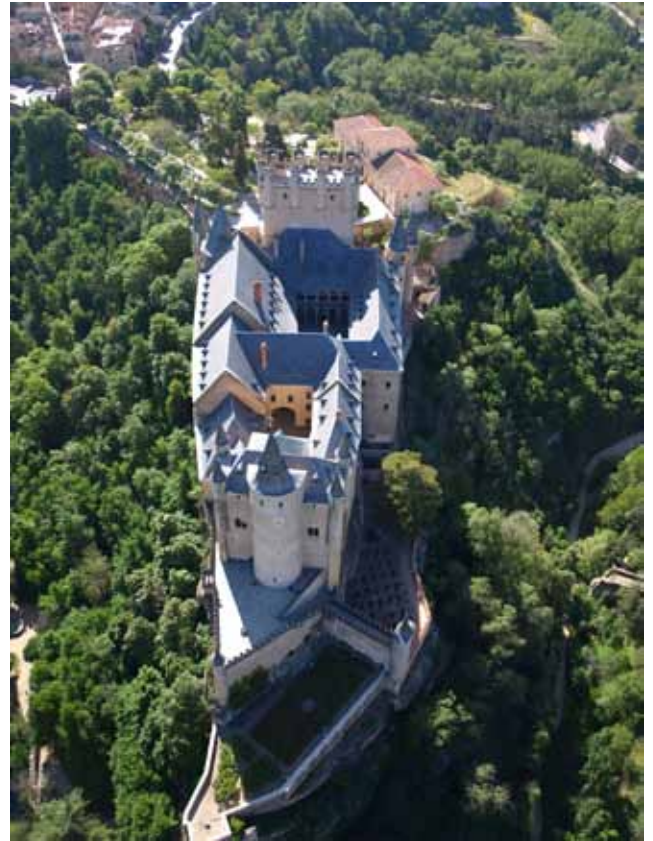
ALMA INVENCIBLE

Ser hija de Castilla significa llevar en los genes eso que ya no se considera español en el mundo, pero que lo es y lo ha sido históricamente más que cualquier otra cosa. No es Castilla la cuna del baile ni de la canción alegres, ni es el símbolo de la pasión amorosa que se han convertido en la marca de identidad de España. Castilla se pelea todos los años con un clima cruel para sacarle a la tierra el trigo con que hacer el pan. Las ciudades castellanas muestran la sabiduría de unos ancestros capaces de levantar obras monumentales y duraderas a pesar de los pocos medios. Cada paso que se da en aquella tierra lleva a un rincón donde admirar la dedicación de un pueblo experto en pasar siglos construyendo catedrales. Se percibe la fortaleza, inteligencia y tesón de los que supieron tallar la piedra para hacer murallas y castillos, convencidos de avanzar en la creación de un país unido. Es ahora un lugar envejecido y hasta pobre, pero fue el bastión de habilidades y valores que es difícil encontrar en potencias prósperas actuales: austeridad, trabajo, sencillez, valentía. Es también el origen de una ambición económica disfrazada de religión que llevó a la creación de un imperio que ahora se juzga con dureza y rencor, pero que encarna una inusual visión política para la época, de amplias miras y pocos límites.

No es necesaria una máquina del tiempo para sentir la fuerza de unas piedras puestas hace siglos por una sociedad floreciente y orgullosa. Hoy siguen abrigándonos del frío, sirviendo de refugio para el rezo y de camino firme para nuestros pies. Unas cuantas horas de vuelo desde Japón sirven para revivir tiempos remotos si el destino es Segovia.

Soy de la tierra de la luz. Su cielo siempre límpido y su frío seco hacen comprender la sobriedad de sus gentes. Es la sobriedad del verdadero corazón de España, ése que es austero y valiente. Ese que subyace, ahora también, a las luchas diarias que libra aquel pueblo con unos enemigos económicos nuevos y etéreos por los que tampoco esta vez se dejará vencer.

Montserrat Sanz Yagüe



El Alcázar de Segovia a vista de pájaro



Montserrat Sanz Yagüe

モンセラット・サンス・ヤグエ

1966年、セゴビア生まれ。マドリッド・コンプルテンセ大学卒業（英語文献学）。ニューヨーク・ロンチェスター大学修士・博士課程修了（言語と認知脳科学博士）。1996年から神戸市外国語大学で教鞭をとり現在同大学教授。研究分野は言語学、言語処理、第二言語習得法に及ぶ。大学院生のための奨学金を通して文科省が助成する日本語話者のスペイン語学習法に関する調査チームを指揮。著書及び国際的専門誌への発表論文多数。スペイン語、英語、日本語で社会的テーマに関わる講演やコラムの執筆も行う。



Vista panorámica de Segovia en invierno con el Alcázar al frente

不屈の精神

カスティーリヤの生まれであるということは、もはやスペイン的であるとは呼ばれないもの、しかし、他の何よりもスペイン的でありつづけてきたものを遺伝子の中に持っていることを意味します。カスティーリヤは、陽気なダンスや歌の発祥の地でもスペインのアイデンティティーの印となった恋の情熱のシンボルでもありません。カスティーリヤは、パンを作る小麦を大地から収穫するために、毎年厳しい気候と格闘しています。カスティーリヤ地方の町は、後世まで残る不朽の建造物を限られた手段で作上げた先人たちの知恵を伝えています。この地を歩くと、カスティーリヤの人々が幾世紀ものあいだ、カテドラル(大聖堂)を築くのに専念してきたことに驚かずにはいられません。城と城壁を築きあげる石を切り、団結したひとつの国を作りだそうと邁進した人々の我慢強さ、知性、粘り強さが感じられます。今やカスティーリヤは古びていて、経済的に困窮してさえもいますが、かつては、現代の繁栄した国ではなかなか見出せない能力や価値、つまり厳格さ、勤勉、素朴さ、勇ましさといったものをしっかりと守る砦だったのです。またカスティーリヤは、宗教でまとめあげるといった表向きの理由で隠されていた経済的野心の原点であり、この野心により帝国が築かれることになりました。現在では手厳しく恨みをもって顧みられる帝国ですが、当時としては、広範な意図をもった、限界をほとんど感じない並々ならぬ政治的展望を体現していたのです。

タイムマシンがなくとも、華々しく自信に満ちあふれた社会のなかで何世紀も前に置かれた石の力を感じ取ることができます。今日もなお、石は寒さから私たちを守り、祈りを捧げる安全な場として、また私たちの歩みを支える確かな道としてありつづけているのです。セゴビアをめざして行くのであれば、数時間も歩けば遠い昔を追体験することができますでしょう。

私は光の大地に生まれました。セゴビアのいつも澄みきった空と乾いた冷気から、そこに住む人々の謙虚さが分かるでしょう。それはスペインの本当の魂がもつ謙虚さで、慎ましく勇ましいものです。セゴビアが挑む日々の闘い、目に見えぬ新たな〈経済的敵軍〉との闘いに、今でもスペインの魂は存在し、これまで敗北を喫することがなかったように、この度も敵に屈することはないでしょう。

モンセラット・サンス＝ヤグエ

翻訳：實野雄介

Traducción: Yusuke Houno



REGIÓN DE MURCIA, CULTURA, HISTORIA Y COMPRAS EN EL MEDITERRÁNEO

En el sureste español, un pequeño territorio situado entre dos mares concentra toda la cultura, tradición, historia y naturaleza del Mediterráneo. Ahora, este espacio todavía repleto de rincones con encanto te anima a vivir la experiencia de tu vida.





*Fachada Santuario de la Vera Cruz.
Caravaca de la Cruz*



Mar Menor. Vista aérea.

La Región de Murcia es un destino contemporáneo que ha sabido integrar en su trazado un pasado poblado de historia y leyenda. Legendarias civilizaciones, desde la íbera y fenicia, hasta la cartaginesa y romana, judía, mora y cristiana, han poblado y explorado su territorio. Todavía en la actualidad, las huellas de estos pueblos perviven recordando el carácter fronterizo de la que fue una de las mayores encrucijadas de Europa.

Aquí, el contacto con la gente se vuelve una experiencia irrepetible y a cada paso el visitante descubre bellezas naturales imposibles de adivinar.

A lo que cultura y patrimonio se refiere, cuatro grandes núcleos se reparten el legado de miles de años de historia.

Cartagena, la ciudad portuaria por excelencia, es púnica, romana, militar y moderna. Los vestigios de las antiguas edades se esconden detrás de cada una de sus calles. La Muralla Púnica, el Augusteum, la Casa de la Fortuna, o el Fuerte de Navidad son testigos vivientes de la grandeza y el esplendor del pasado.

El símbolo de la ciudad es el Teatro Romano de Cartagena, epicentro de la antigua Cartago-Nova, que resurge después de 2.000 años como paradigma de la nueva ciudad del siglo XXI.

Llegar a **Lorca** significa poder disfrutar de la mayor densidad monumental de toda la Región. Museos, iglesias, ermitas y caserones conforman un casco antiguo declarado como Conjunto de Interés Histórico-Artístico y que está presidido por un formidable castillo, conocido como la Fortaleza del Sol. Adentrarse en este parque temático es como emprender un fantástico viaje a la Edad Media.

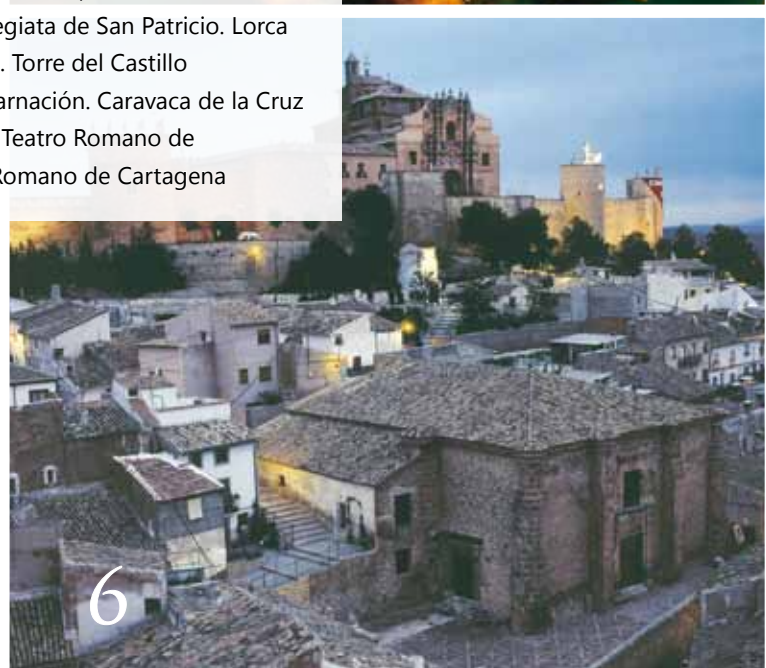


‘Abierta por restauración’

A día de hoy, y tras los terremotos sufridos en la localidad el pasado 11 de mayo, la visita a Lorca ofrece el añadido de comprender cómo funcionan las fuerzas de la naturaleza y de experimentar en directo cómo se recuperan los monumentos, las calles y la normalidad tras la catástrofe más destructiva sufrida en España desde la Guerra Civil, con alrededor de 600 edificaciones afectadas en la ciudad.

La nueva ruta “**Lorca tembló, Lorca se recupera**” invita a los visitantes a que vean de primera mano cómo se desarrolla la recuperación del patrimonio lorquino. Comenzando en el Centro de Visitantes de Lorca Taller del Tiempo, el recorrido muestra el proceso de restauración de algunos de los edificios más emblemáticos del patrimonio regional, como el antiguo convento de La Merced, el conjunto monumental de Santo Domingo, el Palacio de Guevara, la iglesia de San Francisco y la Plaza de España.

En el Noroeste de la Región se levanta **Caravaca de la Cruz**, una de las cinco ciudades santas del mundo, junto con Jerusalén, Roma, Santiago de Compostela y Santo Toribio de Liébana, que tiene el privilegio de celebrar cada siete años el Jubileo Perpetuo. Encomienda de caballeros y templarios, durante siglos esta localidad ha sido centro de peregrinación para la Cristiandad. Cada año, miles de visitantes acuden a la gran Basílica para así ganar el jubileo y contemplar una joya sagrada: la Cruz de Caravaca. La maravillosa reliquia guarda en su interior una astilla del leño en el que fue crucificado Cristo.

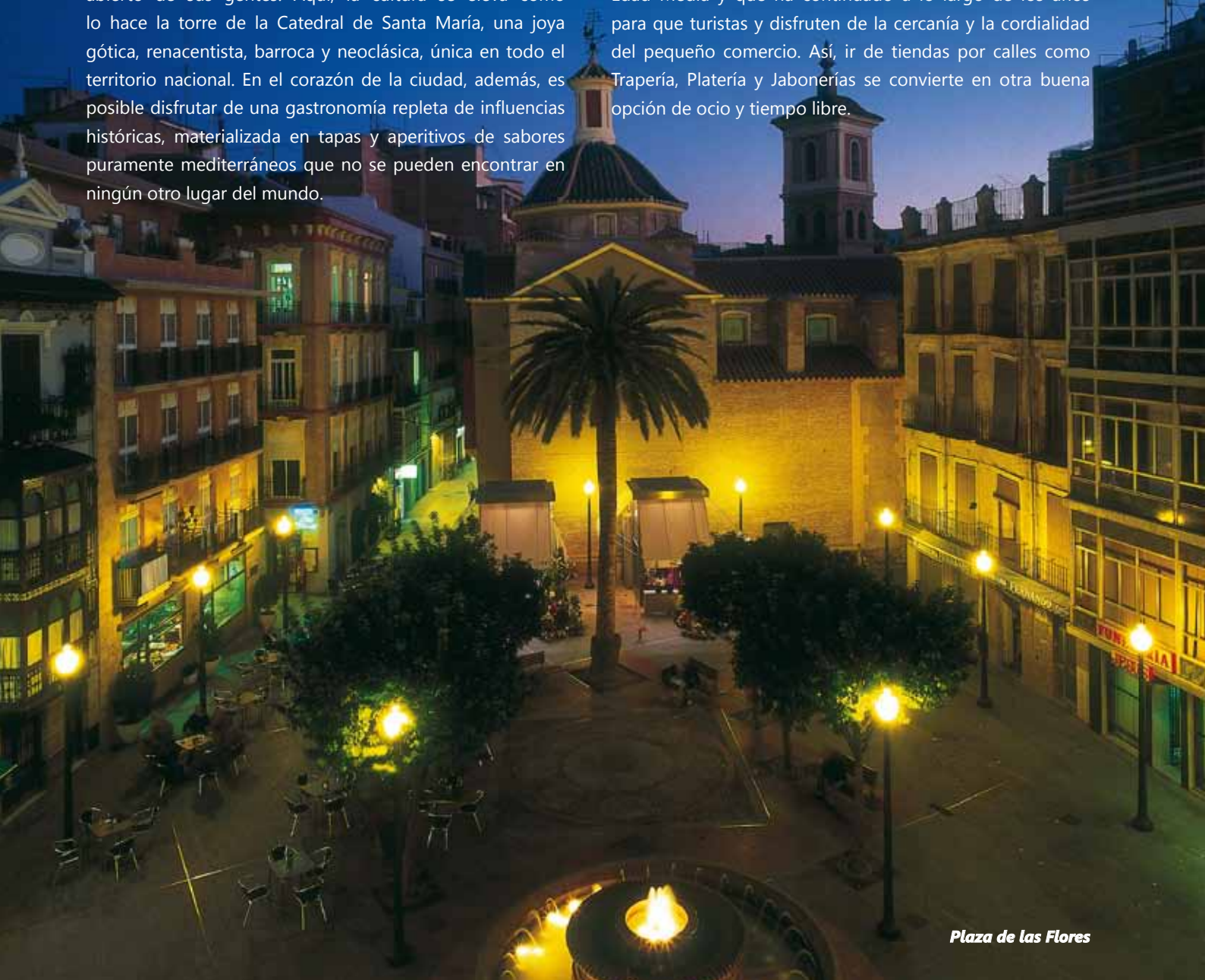


FOTOS: (Oficina de Turismo de Murcia)

1. Bodegón Hortalizas.
2. Colegiata de San Patricio. Lorca
3. Cabo Tiñoso
4. Paparajote
5. Torre del Castillo
6. Vista del Santuario y La Encarnación. Caravaca de la Cruz
7. Fachada Catedral. Murcia
8. Teatro Romano de Cartagena. Fundación Teatro Romano de Cartagena

Murcia, la capital, es una ciudad para vivirla paseando, disfrutando de los diferentes estilos artísticos de su arquitectura, de sus rincones con encanto y del carácter abierto de sus gentes. Aquí, la cultura se eleva como lo hace la torre de la Catedral de Santa María, una joya gótica, renacentista, barroca y neoclásica, única en todo el territorio nacional. En el corazón de la ciudad, además, es posible disfrutar de una gastronomía repleta de influencias históricas, materializada en tapas y aperitivos de sabores puramente mediterráneos que no se pueden encontrar en ningún otro lugar del mundo.

La vida de la capital se completa con una enorme vocación comercial, que hace palpar las calles y plazas más céntricas con una actividad gremial artesana que se remonta a la Edad Media y que ha continuado a lo largo de los años para que turistas y disfruten de la cercanía y la cordialidad del pequeño comercio. Así, ir de tiendas por calles como Trapería, Platería y Jabonerías se convierte en otra buena opción de ocio y tiempo libre.



Plaza de las Flores



7



8



Sounds from Spain in Tokyo 2011



■ 昨年に引き続き、スペイン音楽のショーケース・ツアー「Sounds from Spain in Tokyo 2011」が今年も盛況に行われました。今回は、スペインで話題のインディーズ系アーティスト4組が来日し、メインイベントとして10月19日に東京・渋谷のDUOにて共同ライブが開催されました。

繊細な歌声と抜群の歌唱力を併せ持つAnni B Sweet(アニー・ビー・スウィート)、スペインのPhoenixとも呼ばれるバレンシア出身の5人組Polock(ポロック)、日本で3枚目のCDをリリースし幅広いファン層を集めているPájaro Sunrise(パハロ・サンライズ)、そして新作Fuerteventura(フエルテベントウラ)で世界デビューを果たしたシンガーソングライターRussian Red(ロシアン・レッド)の4グループを一気に堪能できました。

その前夜祭として、18日にセルバンテス文化センター東京にてアンブラグド・ライブを行い、数時間前に成田に到着したばかりとは思えないほど、熱いエネルギーと確かな技術を披露してくれました。

ギター中心で英語の歌詞のメロディックなポップロックは、スペインでは1990年代にDover(ドーベル)を皮切りに開花しましたが、近年次々と現れているバンドはこのシーンに新たな風を吹き込んでいます。ちょうど日本滞在中にロシアン・レッドがMTV Europeにおける「スペイン音楽部門賞」を受賞したことは、正にその証であると言えるでしょう。今後の活躍にぜひ注目を!

セルバンテス文化センター東京
Alberto K. Fonseca Sakai



Alberto K. Fonseca Sakai
アルベルト・K・フォンセカ・サカイ

バルセロナ生まれ。
マドリードの大学卒業後、日本の大学院へ進学。
現在はNHK国際放送アナウンサー、早稲田大学・武蔵
大学講師、セルバンテス文化センターでは広報を担当。

TANKA

—最も日本的なスペインワイン—



2011年3月初め、スペイン内陸部、ラ・リオハ州のあるワイン醸造所を訪れた。この醸造所は、州都のログローニョから西へ40キロのところに位置する人口約230人の小さな村、コルドビンにあり、1992年から本格的な営業を始めている。創業者の名前から「フロレンティーノ・マルティネスワイナリー」(Bodega Florentino Martínez)と名付けられたこのワイン醸造所は、近年他の多くのライバルとは一線を画する取り組みにより、スペイン内外から注目を浴びている。日本の俳句、そしてスペイン語と日本語の音声的な類似に関心を持っていたオーナーのルイス・ミゲル・マルティネス氏が中心となり、2004年に赤ワイン、その名も「Tanka」(タンカ)を発売したのを皮切りに、これまで2度、スペイン語による「俳句コンクール」を開催し好評を博しているからである。



「Tanka」2005年物の裏ラベル
第2回「俳句コンクール」の優勝作品が記載されている

***En el silencio
fresco de la bodega,
se oye un goteo.***

「Tanka」は、2005年物が2010年5月、スペインのバリャドリードで開催された権威ある国際ワイン品評会として知られる「Iberwine」の第11回大会で金賞を受賞し、すでに世界的に高い評価を受けている。また、同じく2010年に開かれた第2回「俳句コンクール」には、実に800人以上が参加し、1300以上の俳句が寄せられた。参加者の国籍は様々であり、スペイン語圏（スペイン、キューバ、メキシコ、ベネズエラ、チリ、アルゼンチン、コロンビア、ウルグアイ、ペルーなど）からはもちろん、それ以外の国々（アメリカ合衆国、ポーランド、ベルギー、イタリアなど）からも多数の応募があった。2010年5月に行われた第2回コンクールの表彰式には、ラ・リオハ州知事のペドロ・サンス氏や駐スペイン日本大使の高橋文明氏も招かれ、「Tanka」と「俳句コンクール」がスペインと日本の交流に少なからず寄与していることを印象付けた。

ちなみに第2回コンクールで優勝した俳句は、スサナ・ベネ



ワイナリー正面玄関前で関係者と撮影
中央の男性がオーナーのルイス・ミゲル・マルティネス氏

ト・ファヨス氏の“En el silencio fresco de la bodega, se oye un goteo”「酒蔵や滴しずかに聞こえけり」（拙訳）であった。日本語の俳句さながらに読者の想像力を掻き立てるものである。オーナーによると、2012年中には第3回「俳句コンクール」が開催される予定だという。加えてオーナーは「Tanka」を近い将来、必ず日本でも売り出したいと語っていた。それが実現すれば日西交流は、年月とともに熟成していくワインのように、さらに深みを持つことは間違いないであろう。

文 龍谷大学専任講師 安田圭史

参考：フロレンティーノ・マルティネスワイナリー
www.florentinomartinez.com



安田 圭史

やすだけいし / Keishi Yasuda

1977年山口県出身。龍谷大学経済学部専任講師。
日本・スペイン・ラテンアメリカ学会 (CANELA) 理事。
専攻はスペイン現代史。
著書に『インターネット対応学習プログラム付き スペイン語技能検定5級直前対策問題』（共著、南雲堂フェニックス）、『スペイン文化事典』（共著、丸善）、*Japón y la Península Ibérica: cinco siglos de encuentros*（共著、Satori Ediciones）など。

DVD『難破船の残した友情』 監督・脚本 ゴンサロ・ロブレド

DVD Del naufragio a la amistad, escrito y dirigido por Gonzalo Robledo



難破船の残した友情 (DVD)
- Del naufragio a la amistad -

【撮影】 御宿、東京、スペイン、サイパン
【監督・脚本】 ゴンサロ・ロブレド
【音楽】 エルンスト・レイスグル
【制作】 2009年、パチェ株式会社
ドキュメンタリー 60分
スペイン語 (日本語字幕) NTSC
【価格】 3,990円 (税込)

冒険小説、特にロバート・ルイス・スティーヴンソンの不朽の名作『宝島』などを読むと、歴史ミステリーを探る探偵になって、あらゆる文化的、科学的知識を使ってどこかに眠っている宝を探り出したくなるものだ。水中や地中に眠る宝を探す冒険は、多くの芝居、映画、テレビ番組、マンガ、そして最近ではゲームのテーマになってきた。スティーヴンソン以外にも、世界文学の中には、主人公が宝をめぐる冒険を繰り広げる作品が少なくない。例えばガブリエル・ガルシア・マルケスは、『コレラの時代の愛』の中で、ロマンチックな主人公が、1708年にコロンビアのカルタヘナ・デ・インディアス沖に沈んだスペインのガレオン船サン・ホセ号の残骸を探るため、若いならず者のダイバーを雇うが失敗するというエピソードで、世の中の金に対する執着について語っている。近年観た映画の中でおもしろかったもののひとつは『フールズ・ゴールド/カリブ海に沈んだ恋の宝石』だ。マシュー・マコノヒー演じる、宝探しに取りつかれたハンサムな男が、カリブ海底に沈む膨大な宝を見つけるが、危険な武装グループとの争いに巻き込まれていくというストーリー。

映画や小説に登場する宝の多くは、ガレオン船が盛んに海を往来していた時代にスペインが所有していたものだ。ガレオン船は16世紀から19世紀にかけて、世界の海で戦いを繰り広げ、宝石や硬貨や高額な商品を積んで航海していた。ガレオン船が戦闘や嵐で沈没すると、宝は可能な限り引き上げられたが、多くの場合、金や商品などは沈んで行方がわからなくなった。そこから莫大な価値のある宝をめぐる数々の伝説が生まれることとなった。



そんな宝が、私の住む東京の近くに眠っていると知ったのは2008年の終わりのことだった。1609年9月に千葉県御宿(成田空港から約50キロ)の沖で台風によって沈んだというガレオン船サンフランシスコ号について調べ始めたのがきっかけだ。マニラからアカプルコに向かっていたそのガレオン船から300人以上の乗組員が救出されたことを記念して、御宿近郊では毎年お祭が開かれているので、私もその歴史的事実は知っていた。ただ、その船が積んでいた荷物の価値について、それまで深く考えたことはなかったのだ。

乗組員救出の話は、スペイン、メキシコ、フィリピン、そして日本の間の親睦の象徴として語られている。ただ、スペインは海中の宝リストに日本の海に沈んだこの荷積みめのガレオン船を加えたものの、今後この船を考古学者や歴史家に調査させるか、あるいは最近よくあるケースのように、プロのトレジャーハンターにこっそり略奪されるままにするかの判断を迫られる。

2006年に『フランシスコ・ザビエルの遺産』というドキュメンタリーを作成した私にとって、スペインと日本の初期の関わりという歴史的研究は身近なものだった。しかし今回は歴史的内容ではなく、宝探しをテーマにしたジャーナリストック

なドキュメンタリーを作ることにした。水中を撮影するため、私はダイビングの免許をとって、水中カメラマンと共に御宿の海に潜ったりもした。作品は「宝探しについてのエッセイ 東京近郊に沈んだ宝」というサブタイトルがつく、字幕付きの1時間のドキュメンタリーに仕上がった。

制作にあたっては、スペイン大使館文化部や、グラシアン基金、セルバンテス文化センターなどスペインの諸機関をはじめ、御宿町役場、地元の漁業組合、そして素潜りで約10メートルの深さで魚介類を採ることよく知られる女性と男性の海女さんたちのご協力を賜った。

このDVDでは、日本の外交史においてほとんど知られていない驚くべきエピソードが語られている。ロマンチストは、金属探知機や宝の地図を携えて御宿を訪ねたくなるだろう。

ぜひ地元のレストランで新鮮な魚を味わってもらいたい。ただし、台風にはくれぐれも気をつけて。

文・写真 ゴンサロ・ロブレド



『難破船の残した友情』 好評発売中!
お問合せ・お求めは、ADELANTESHOPへ!

ADELANTESHOP (アデランテショップ)

URL : www.adelanteshop.jp

E-MAIL: info@adelante.jp

TEL/FAX : 06-6346-5554

写真左:
日本、メキシコ、フィリピン、スペイン
の間の親睦を象徴する記念碑

写真下:サンフランシスコ号の沈没
について解説する掲示板



Gonzalo Robledo
ゴンサロ・ロブレド

1958年南米コロンビア、ベレイラ生まれのジャーナリスト／プロデューサー。1981年より東京在住。

これまでにスペインの全国紙エル・パイス (El País) 通信員、RTVEスペイン国営テレビジョン通信員、そしてEFEスペイン通信社東京支局員を務める。TVE、テレマドリッド、カナル・スール、EFE-TV、カナル・クアトロ等、スペイン語圏の各テレビ局向けに、ルポタージュやドキュメンタリーなど、数々のTV番組の脚本・制作・演出を手掛ける一方、日本でも、NHKテレビ、関西テレビ、映画制作会社「エクセレント・フィルム」向けに番組を制作。日本では、アサヒグラフ(朝日新聞社)、毎日グラフ(毎日新聞社)、コモンセンス(教育社)、カーグラフィック、ナビ(二玄社)、フォーカス(新潮社)等、多数の雑誌に写真・記事を掲載。スペインでは、日本及び日本文化に関する記事をGEO、Altair, Islas, Lonely Planetなどの雑誌に掲載。

はじめてのスペイン語講座

第7回 動詞GUSTAR



Hola. みなさん、こんにちは!

今回は、『～が好き』という表現について、勉強しましょう! ここで使うのは“**GUSTAR**”という動詞です。この動詞を
使えるようになれば、自分の好きなものについて話したり、相手の好き嫌いを尋ねたりすることが出来ます。

ただし、この動詞は他の動詞とは少し性質が違いますので、注意してみていきましょう!

① 『～が好き』という表現

pre
#1
覚えてましょう!

(A mí) **me** (私は)

(A ti) **te** (君は)

(A él/ella/usted) **le**

(彼は／彼女は／あなたは)

(A nosotros) **nos** (私たちは)

(A vosotros) **os** (君たちは)

(A ellos/ellas/ustedes) **les**

(彼らは／彼女らは／あなたたちは)

gusta

[**gustarの**
3人称単数形]

{ 名詞(単数形)
不定詞

+

gustan

[**gustarの**
3人称複数形]

— 名詞(複数形)

《gustar》動詞は、『人(主語)が物・こと(目的語)が好きである』という意味の動詞ではなく、
『物・こと(主語)が人(間接目的格)に好かれる』という意味をもっています。

3人称単数形 スペイン語(名詞・単数形)

Me gusta el español.

私はスペイン語が好きです。

つまり、上の例文は、『スペイン語が私に好かれる』という構造で、文法上の主語は《el español》
(3人称単数形)のため、動詞の活用が《gusta》になります。

3人称単数形 旅行をする(不定詞)

Me gusta viajar.

私は旅行をする
ことが好きです。

3人称複数形 タパス(名詞・複数形)

Me gustan las tapas.

私はタパスが好きです。

不定詞《Viajar》は、3人称単数形扱いとなる
ため、ここでも動詞は《gusta》を使います。

主語が《las tapas》(3人称複数形)ですので、
動詞の活用が《gustan》と変化します。

注意!

A Teresa le gusta comer.

〈A Teresa〉 = 〈le〉 テレサは食べるのが好きです。

〈le〉が表すものを明確にするため、
〈A Teresa〉を前に置きます。

〈Le gusta(n) 〉の〈le〉は、『彼』、『彼女』、『あなた』の
どの場合について話すときでも使えるため、時には誰に
ついて話しているのか分からなくなることがあります。

混乱を避けるために、例文の様に、文頭に〈A Teresa〉と
付けることによって文章の意味するところを明確にすること
が出来ます。



もちろん、誰のことが明確な場合は、

○ **A mí me gusta comer.**

と言っても、〈A mí〉を省略して、

○ **Me gusta comer.**

と言っても、どちらも正解です。
しかし、〈Me〉だけを省略して、

✗ **A mí gusta comer.**

と言うことは絶対に出来ません。
注意して下さいね。

②『好き』の度合いを表現する。

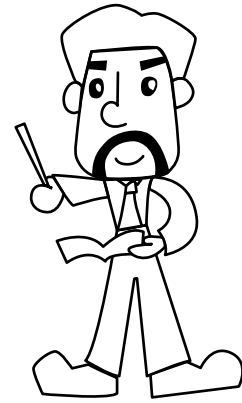
一口に『好き』と言っても、いろいろな度合いがありますね。

『すごく好き』から『まあまあ好き』そして『全然好きじゃない』まで、gustarを使って表現することが出来ます。下の例を見ていきましょう。

例えば、先生から

¿Te gusta estudiar español?

スペイン語を勉強するのは好きですか？



と聞かれた時の答えは、以下のようになります。

Sí, me gusta mucho (estudiar español).

はい、(スペイン語を勉強するのが)大好きです。

Sí, me gusta (estudiar español).

はい、(スペイン語を勉強するのが)大好きです。

Así así. / Normal.

まあまあです。 / 普通です。

No, no me gusta mucho (estudiar español).

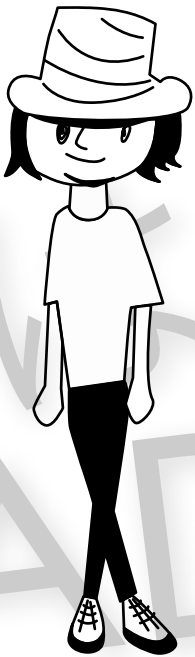
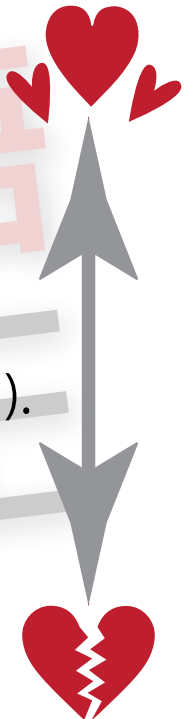
いいえ、(スペイン語を勉強するのが)あまり好きではありません。

No, no me gusta (estudiar español).

いいえ、(スペイン語を勉強するのが)好きではありません。

No, no me gusta nada (estudiar español).

いいえ、(スペイン語を勉強するのが)全然好きではありません。



上の6つの文章は、上に行くほど好きの度合いが強く、下に行くほど嫌いの度合いが強くなります。
今日のレッスンで学習したことを使って、自分の好きなもの、苦手なものについて話してみましょう。



un descanso....

ここでは、他の人の「～が好き」「～が好きではない」という意見に対して、同意や反対するときの表現を覚えましょう。

☺ Me gusta cantar. (私は歌うことが好きです。)

に対する答え方は：

☺ A mí también.
(私も好きです。)

☹ A mí no.
(私は好きではありません。)

☹ No me gusta bailar. (私は踊るのが好きではありません。)

に対する答え方は：

☹ A mí tampoco.
(私も嫌いです。)

☺ A mí sí.
(私は好きです。)

イラスト：田中 文子



- ・一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベートなど目的やペースに合わせて選べるコース
- ・ネイティブ講師だからプチ留学気分です
- ・自然なスペイン語がマスターできる!
- ・振替ができるので忙しくても安心!
- ・月謝払いOK!
- ・無料体験レッスン、教室見学等☆随時受付中

スペイン語教室 ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2F
TEL/FAX: 06-6346-5554
E-mail: info@adelante.jp • http://www.adelante.jp

スペインで話されている スペイン語以外の言語

スペイン＝スペイン語というイメージが強く、日本国内ではあまり知られていませんが、もともとスペインにはカスティーリャ語(スペイン語)の他にガリシア語、バブレ語、バスク語、アラゴン語、アラン語、カタルーニャ語、バレンシア語といった色んな言語があり、現在でも各自治州の公用語として使われています。

例えば、観光都市のバルセロナでは、標識や看板などにカタルーニャ自治州の公用語であるカタルーニャ語、カスティーリャ語(スペイン語)、英語で表示されているのを見かけます。少し勉強してみましょう。

 カスティーリャ語(スペイン語)	 カタルーニャ語	 バスク語	 ガリシア語	 日本語
Hola	Hola	Kaixo / Aupa	Hola	やあ
Me llamo ...	Em dic ...	Nire izena ... da	Chámome ...	私は。。。です
¿Qué tal?	Què tal?	Zer moduz?	¿Qué tal?	元気ですか?
Muy bien ¿y tú?	Molt be. I tu?	Oso ondo, eta zu?	Moi bien. ¿E ti?	とても元気です。 あなたは?
Buenos días	Bon dia	Egun on	Bos días	おはよう
Buenas tardes	Bona tarda	Arratsalde on	Boas tardes	こんにちは
Buenas noches	Bona nit	Gabon	Boas noites	こんばんは
Adiós	Adéu	Agur	Adeus	さようなら
Muchas gracias	Moltes gràcies	Eskerrik asko	Moitas grazas	ありがとう

✂ キリトリ線

Cupón de descuento

入会金 40%OFF

15,750円 → **9,450円**

(2012年3月末迄有効)

※必ずお申込時に切り取ってご提出ください。

スペイン語教室ADELANTEでは、カタルーニャ語、バスク語、ガリシア語の各クラスを来年1月より開講いたします。

ネイティブ講師が丁寧にしっかり基礎から教えます。

プライベート:6,300円～、セミプライベート:4,830円～

(1回/50分・自由予約・回数制)

お気軽にお問い合わせください。(TEL:06-6346-5554)

ガリシア語は、主にガリシア自治州で使用されています。ガリシア自治州の州都は、カミノ・デ・サンティアゴ(巡礼の道)の聖地として有名なサンティアゴ・デ・コンポステーラです。



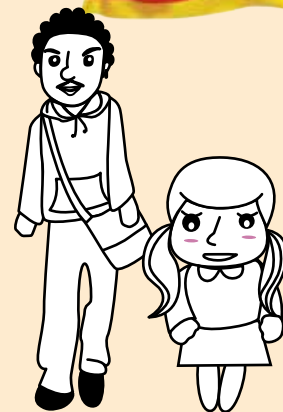
Moitas
grazas.



カタルーニャ語は、主にカタルーニャ自治州及びバレアレス諸島で使用されています。サグラダ・ファミリアをはじめとするガウディ建築の数々で有名なバルセロナはカタルーニャ自治州の州都です。



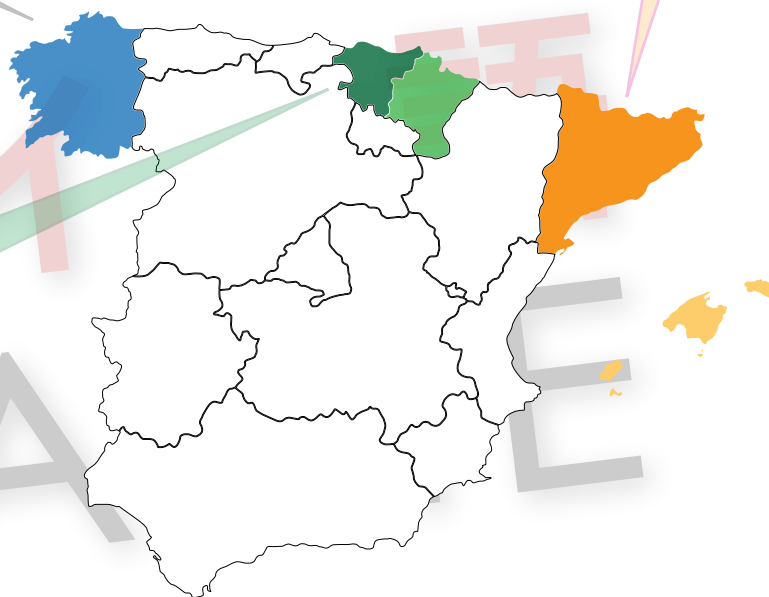
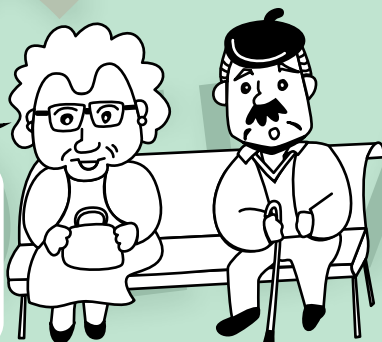
Moltes
gràcies.



バスク語は、主にバスク自治州・ナバラ自治州で使用されています。グッゲンハイム美術館のあるビルバオ、美食の町で知られるサン・セバスチャンはバスク自治州の都市。牛追い祭りで有名なパンブローナは、ナバラ自治州にあります。



Eskerrik
asko.



スペイン&中南米への留学相談・入学手続き・無料サポート

スペイン留学.jp



今からでも間に合う! 年末の短期スペイン留学!

クリスマスコース1週間(12/26~12/30) 登録料:65ユーロ、授業料:180ユーロ

ホームステイ(2食付)155~219ユーロ

マドリッド・バルセロナ・サラマンカ・マラガ・グラナダ・セビージャ等スペイン各地で受講可能です。

〒530-0001 大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2F TEL/FAX: 06-6346-5554

www.spainryugaku.jp email:info@spainryugaku.jp





Avanzamos A1

- Curso de español dirigido a todos aquellos que desean iniciarse en el estudio de la lengua .
- 8 unidades con más de 100 páginas a todo color y **CD incluido**.
- Muy visual y comunicativo abarcando todos los niveles lingüísticos (gramaticales, léxicos, fonéticos y de escritura).
- A lo largo de todo el curso, se ha buscado la participación constante de los estudiantes para que el aprendizaje sea activo.

Unidad 3

Hogar, dulce hogar

En esta unidad estudiamos:

- Expresar existencia de personas y objetos
- Localización de personas y objetos
- Hay - Estar
- Describir un lugar
- Números ordinales



Hay	un	armario
	una	lámpara
	unos	sillones
	unas	sillas
	dos	camas
	tres	mesas
	cuatro	cuadernos
	quince	libros

3.1. Relaciona los elementos de las tres columnas.

Hay	un	libro
	una	toallas
	unos	ordenador
	unas	televisión
		plantas
		sofá
		sillones

3.2. ¿Qué hay en casa de Daniel? Completa con las palabras siguientes:

Armario Cama Cocina Ducha Fregadero Horno
 Lavabo Espejo Mesa Mesilla de noche Nevera Silla
 Televisión Estantería Sofá Sillón Lámpara



3.3. Escucha la descripción del apartamento de Ana. Completa la tabla.

En	el salón	la habitación	el cuarto de baño	la cocina	el garaje
Hay	una televisión				

5.8. Lee y luego pregunta a tu compañero/a.

A mí me gusta el baloncesto. ¿Y a ti?

A mí no me gustan los toros.

A mí también.

A mí tampoco.

5.9. Completa las frases con un pronombre (me, te le...) y el verbo gustar.

- A mí me gusta salir con los amigos.
- ¿A ti te gusta el fútbol?
- A Javier le gustan los animales.
- A nosotros nos gusta ir al cine.
- A vosotros os gusta nadar?
- A ellas les gusta la música.

5.10.a Escribe el nombre de estos alimentos.



5.10.b Clasifica los alimentos anteriores en:

Desayuno	Comida	Cena
	Paella	

Los españoles comen la paella normalmente al mediodía.

cincuenta y tres 53

5

日本のスペイン語学習の現状を
考慮した新しいスペイン語テキスト☆
オールカラーCD付!
1,890円(税込)



Asociación Cultural Española
スペイン文化協会

ADELANTE Co., Ltd.
2FL. Chiyoda Bldg. West Annex
2-5-8 Umeda Kita-ku
Osaka 530-0001 Japan
TEL/FAX: (+81) 6-6346-5554
www.adelanteshop.jp
info@adelanteshop.jp

スペイン語の本&雑貨
www.adelanteshop.jp
adelante
shop

推量の表現について

今回の号では少し趣向を変えて、推量表現について扱います。推量とは、「～だ」と断言する自信がない時に「～だろう」とか「～かもしれない」などと想像して言う表現です。初級の文法を終えたくらいの学習者の方には特に気になるテーマではないでしょうか。

推量を表現するにはいくつかの手段がありますが、まずは動詞活用に注目してみましょう。未来形を習った際に用法として「推量」が出てきたことを思い出してください。

Mañana Javier **estará en Barcelona.**

明日ハビエルはバルセロナに**いる**だろう。(未来)

Ahora Javier **estará en Barcelona.**

今ハビエルはバルセロナに**いる**だろう。(現在の推量)

日本語の「～だろう」も実はスペイン語と同じで「未来」と「現在の推量」の意味があるので、日本語に訳してもよくわかりません。しかし、前者は時間的に未来のことを言っていて、後者は今(つまり、現在)のことを推量して言っています。つまり「未来形」だからと言って必ずしも未来のことを表すとは限らないのです。ですから、文法用語では「未来形」が定着していますが、むしろ「推量形」の方がふさわしいと考える研究者もいます(筆者もその一人です)。

もう一つの推量を表す動詞の活用形は接続法です。これは時制とは違う「法」という概念なのですが、後で見るように単独ではなく推量の副詞や表現とともに使います。

それでは次に、推量を表す副詞を見ていきましょう。

probablemente, posiblemente, quizá, tal vez
などがそうです。

Posiblemente Carmen **está de viaje.**

たぶんカルメンは旅行中でしょう。

posiblementeは現在形以外に未来形や接続法とも使われます。

Posiblemente Carmen **estará de viaje.**

Posiblemente Carmen **esté de viaje.**

動詞の形を変えることによって可能性の度合いが変わります。

接続法 (**esté**) — 未来 (**estará**) — 現在 (**está**)

可能性: 低い ← → 高い

ネイティヴスピーカの語感では、**probablemente**の方が**posiblemente**よりやや確立が高いようです。

一方、**quizá**や**tal vez**は**posiblemente**や**probablemente**よりも更に実現の可能性が低い推量を表します。

Quizá **está enfermo Juan.**

フアンは病気なのかも知れません。

Quizáの場合も直接法現在には使われますが、接続法の方がよく使われるようです。もちろん接続法を使った方が可能性が低いというニュアンスになります。よく教科書や参考書で、**quizá**や**tal vez**の訳として「たぶん」、「おそらく」を見かけますが、「かもしれない」の方がよいと思います。「たぶん」だと70%くらいの確率を感じますが、**quizá**はせいぜい半々かそれ以下のことを言うそう

です。因みに**quizá**の語源はラテン語のQui sapit? (スペイン語では、¿Quién sabe?) だと言われています。つまり、「誰が知っているか? → 知らない」です。疑惑の副詞と呼ばれるゆえんです。

ここまで見た副詞をまとめると以下ようになります。

quizá — posiblemente — probablemente
(tal vez)

可能性: 低い ← → 高い

では、ここまで見てきた動詞の活用形と副詞の使用を組み合わせた例を見てみましょう。

Ella **está enfadada conmigo.**

Probablemente ella **está enfadada conmigo.**

Posiblemente ella **estará enfadada conmigo.**

Quizá ella **esté enfadada conmigo.**

上から下に行くに従って可能性が低くなっているでしょう。実際にはもっといろいろな組み合わせがありますし、ネイティヴの話者でも感じ方が異なるようです。

また、やや口語的な表現で《**a lo mejor**》という語句がありますが、なぜか直接法しか使われません。

A lo mejor me **toca la beca para estudiar en México.**

メキシコで勉強する奨学金がもらえるかもしれない。

その他にも、「**Es probable que + 接続法**」、「**Es posible que + 接続法**」、「**Puede que + 接続法**」(「**Puede + 不定詞**」)などなどいろいろな表現がありますが、キリがないので今回はこのへんで。

それでは最後に、確信を持って断言する表現にはどんなものがあるのでしょうか。一部を紹介します。

No cabe duda de que el Barça ganará el campeonato de este año.

バルサが今年の選手権で勝つことは疑いない。

Con toda seguridad Japón se recuperará de este desastre natural, aunque llevará tiempo.

時間はかかるだろうが、間違いなく日本はこの自然災害から立ち直るだろう。

それでは今回はこれくらいで。¡Hasta la vista!

仲井 邦佳



仲井 邦佳

なかいくによし/Kuniyoshi Nakai

立命館大学産業社会学部教授。

京都イスパニア学研究会会長。専門はスペイン語学。

著書に『コミュニケーションのためのスペイン語』(共著、第三書房)、『中級スペイン語 一文法と演習』(共著、同学社)などがある。



EL MUSEO TRANQUILO

A la sombra del Museo del Prado o del Thyssen-Bornemisza, la Real Academia de Bellas Artes de San Fernando es una de esas gratas sorpresas que nos brinda la oferta museística madrileña.

Buscando nuevas sensaciones o incluso recordando que la Real Academia era el museo menos famoso entre los famosos de la capital, pudo más mi curiosidad que la visita obligatoria al Museo del Prado.

Ya la calle de Alcalá nos da la bienvenida con sus edificios neoclásicos y hasta cierto punto con cierta tranquilidad, dentro del bullicio del centro madrileño.

El edificio original fue obra del arquitecto insignia del barroco castellano José de Churriguera, aunque fue transformado por Diego de Villanueva en el s.XVIII, aportándole su fachada neoclásica actual.

La entrada del museo es de estilo muy señorial. Hay que recordar que el edificio original era el Palacio de Goyeneche, olvidándonos de que estamos en un recinto cultural y casi esperando que pudiéramos ser recibidos por tal personaje nobiliario....

A continuación aparecen unas impresionantes escalinatas de piedra que nos llevan en primer lugar al piso superior donde se encuentra la zona de exposiciones temporales del museo. Esta sala de exposiciones se dirige al fondo del palacio, pudiendo disfrutar no solamente de las obras de arte sino también de una arquitectura de singular originalidad, con unos patios interiores de gran belleza.

En el segundo piso se encuentra la exposición permanente del museo. Se pueden admirar a artistas tales como Zurbarán, Goya, Sorolla, Picasso y Juan Gris.

Como indica su nombre, en la Real Academia de Bellas Artes de San Fernando, también hay además de pinturas otras obras de diferentes disciplinas artísticas. En el caso de Picasso un bronce con el título de Cabeza de mujer y algunos grabados.

No colas, sosiego y disfrute diferente de un museo que tiene como encanto el relativo desconocimiento del que se tiene al lado de un coloso como el Prado.

Vicente Alcañiz Buceta



著名な美術館の影に隠れるように存在する王立サン・フェルナンド美術アカデミーは、マドリッドの美術館の中でも思いがけない驚きを与えてくれます。

アルカラ通りの新古典主義の建物は不思議な事にマドリッドの喧噪の中心にありながら、ある種の静けさが漂います。

元々この建物は、ゴイエネチェの大邸宅としてバロック建築家ホセ・デ・チュリゲラによって建設されましたが、18世紀にディエゴ・デ・ビジャヌエバによって行われた改修時に、現在の新古典主義のファサードが完成しました。

堂々とした入り口を入ると、昔の世界に入り込んだ様な気分になります。美術作品だけでなく、美しい中庭を持つこの建物は、建築物としての素晴らしさも味わうことができます。2階に上がると建物の奥まで広がる特別展や企画展を行うスペース、3階には常設展のスペースがあります。常設展ではスルバラン、ゴヤ、ソローヤ、ピカソ、フアン・グリスなどの作品を鑑賞でき、絵画作品だけでなく彫刻作品もあります。

行列もなく、静かな中で直ぐそばにあるプラド美術館とはまた違った楽しみ方ができる美術館です。



COLECCIÓN DEL MUSEO

Luis Morales, Antonio Pereda, Zurbarán, Goya, Luis Paret, Vicente López Portaña, Eduardo Rosales, Sorolla, Romero de Torres, Cecilio Plá, Daniel Vázquez Díaz, Picasso, Pablo Serrano y Juan Gris.

También obras de artistas extranjeros: Giovanni Bellini, Correggio, Leandro Bassano, Arcimboldo, Rubens, Louis Michel van Loo, Mengs y Van Dyck.



Vicente Alcañiz Buceta ビセンテ・アルカニース・ブセタ

Lugar de nacimiento : Valencia. Terminó sus estudios en periodismo en la Universidad CEU San Pablo de Valencia y después realizó un master de periodismo en EE.UU. En la actualidad es profesor de español en diferentes instituciones educativas en Tokio y es periodista.

バレンシア生まれ。CEU San Pablo大学でジャーナリズムを専攻した後、同じ専門について米国の大学院でも修士課程を修める。現在は、東京でスペイン語講師をしながら、ジャーナリストとしての仕事を続けている。

PREMIOS
PRÍNCIPE
DE ASTURIAS
PRINCE OF ASTURIAS AWARDS
PRIX PRINCE DES ASTURIES
PRINZ-VON-ASTURIEN-PREISE
PRÉMIOS PRÍNCIPE DE ASTÚRIAS
2 0 1 1



LOS HÉROES DE FUKUSHIMA

フクシマの英雄たち



Audiencia oficial de SS.AA.RR. los Príncipes de Asturias
con los galardonados 2011. Foto Iván Martínez / FPA



Los premios Príncipe de Asturias se convocaron por primera vez en 1981. Están dotados con 50 000 euros y una escultura de Joan Miró. La Fundación Príncipe de Asturias, que se nutre en su mayor parte de aportaciones de empresas privadas, gestiona la organización de jurados y ceremonias, además de llevar a cabo una labor de difusión cultural, sobre todo de índole musical. Las categorías a las que se otorgan los galardones son las siguientes: Artes, Comunicación y Humanidades, Letras, Deportes, Concordia, Ciencias Sociales, Investigación Científica y Técnica y Cooperación Internacional.

A lo largo de los años muchas personalidades e instituciones internacionales de enorme prestigio han sido galardonadas, tales como Michail Gorbachov, Umberto Eco, Woody Allen, Yaser Arafat, Bob Dylan, UNICEF, Stephen Hawking, Mario Vargas Llosa...

El espíritu que anima esta iniciativa es "contribuir a la exaltación y promoción de cuantos valores científicos, culturales y humanísticos son patrimonio universal".

En el mes de octubre se celebra la ceremonia de entrega a los premiados del año anterior. El acto tiene lugar en el teatro Campoamor de Oviedo, capital del antiguo reino de Asturias, que fue el origen de la conquista cristiana durante la Edad Media.

Las fuerzas de seguridad de Japón (policía, bomberos y Fuerza de Autodefensa) han recibido el premio 2010 a la Concordia por "tratar de evitar con su sacrificio que el desastre nuclear provocado por el tsunami que asoló Japón multiplicara sus efectos devastadores, olvidando las graves consecuencias que esta decisión tendría sobre sus vidas".

Ángel L. Montilla Martos Fotos: Iván Martínez / FPA



アストゥリアス皇太子財団によって創立された アストゥリアス皇太子賞は、1981年に発足し、科学、文化、人道的な観点において世界に貢献した人々に贈られる賞である。現在、受賞者は、芸術、コミュニケーションおよびヒューマニズム、文学、スポーツ、共栄共存、社会科学、学術・技術研究および国際貢献の8部門毎に選ばれ、5万ユーロとジョアン・ミロによる彫像が贈られる。

過去には、ミハイル・ゴルバチョフ、ウンベルト・エーコ、ウディ・アレン、ヤーセル・アラファート、ボブ・ディラン、ユニセフ、

スティーヴン・ホーキング、マリオ・バルガス・リョサをはじめとする個人、組織や機関が受賞している。

去る10月、中世にはレコンキスタの出発点となったスペイン北部のアストゥリアスの州都、オビエドにおいて授賞式が行われた。

共栄共存部門では『自らを犠牲にし、健康への影響を省みずに命をかけて、津波によって引き起こされた原発事故による被害拡大を防いだ』と、日本から出席した警察、消防、自衛隊から選ばれた代表達へ賞が授与された。

『めがねっこマノリート』作者、エルビラ・リンド氏来日

去る10月25日、スペインの有名な女流作家、エルビラ・リンド氏が京都外国語大学を訪問され、「女流作家の見た現代スペイン社会」のテーマで講演をされ、多くの学生が参加した。講演では、スペインの民主化の時代に彼女がどのような影響を受け、それが自らの著書の中にどのように反映されているかについて話された。また、スペインの社会と文化が今、どのような状況にあるかについても言及された。

リンド氏は1年の半分をニューヨークで過ごしているため当初は言葉の壁と向き合ったと話され、自らの経験をもとに外

国語の大切さ、そしてそれを話すためには羞恥心をなくす必要性があると述べられた。

学生はリンド氏の講演に興味を示し、多くの質問が飛び交った。彼女は質問に対して丁寧に返答され、最後に日本人への感謝を込めて初来日の感想を述べられた。日本の景色や料理そして、日本人の親切心に心を奪われた彼女は、ぜひとも再び日本に来たいと願っていると話された。日本に興味を持ち、日本人を愛するリンド氏の再来日の日を私たちは心待ちにしたい。

エルビラ・リンド氏 京都外国語大学にて



Spanish Communications

春休みを利用して2～8週間のスペイン留学をしてみませんか。
ご希望の場所・期間から留学プランを提案します。まずはご連絡ください。



スパニッシュコミュニケーションズはみなさんのスペイン留学をサポートします。

スペイン専門の
留学エージェント
(中南米の語学学校も
一部紹介しています)

スペイン各地の語学
学校のほか、スペイン
の大学が開講する語学
コースを紹介・手続き

入学の手続き、ビザ
申請書の作成、スペイン
出発前のオリエンテー
ション等の留学サポート

スペイン留学に関する
概算費用とともに
留学プランを提案

Spanish Communications



(株) スパニッシュコミュニケーションズ 〒140-0015 東京都品川区西大井 2-14-2.,7F
TEL: 03-5709-9251 FAX: 03-5709-9241 e-mail: info@spacom.jp website: www.spacom.jp

日本で活動するスペイン関連クラブのご紹介

第5回 立命館大学フラメンコサークル Sonsonete

初めまして、こんにちは！ 私たちは立命館大学のフラメンコサークル“Sonsonete (ソンソネーテ)”と申します。

立命館大学の衣笠キャンパスにて法学部や文学部、国際関係学部などの様々な学部のメンバーが集まって週2回フラメンコを練習しています。メンバーは4年生5人、3年生6人、2年生2人、1年生3人の計16人で多くのメンバーがスペイン語を学んだり、スペイン留学を経験しています。

活動内容は一年間を通して立命館大学の学園祭をメインとしていますが、嬉しいことに出演依頼を頂いた地域のイベントや、幼稚園、福祉施設、サークルメンバーのバイト先の居酒屋まで幅広く出演させて頂いています！ また、昨年頃からより良いSonsonete!にしていくと練習用の鏡の自主制作や、基礎練習の見直し、振付の改良など出来ることにどんどん挑戦してきました！

まだまだ歴史の浅いサークルですが、今年度より全日本学生フラメンコ連盟にも参加し、たくさんのことを吸収して成長していきたいと思います。そしてこれまでサークルを通して出会った方々、応援してくださる方々に感謝する気持ちを忘れずに、Sonsoneteの踊りを観て少しでも楽しんで頂けるよう頑張ります！ 機会があれば私達の踊りを観に、ぜひお越しください。¡Muchas Gracias!



立命館大学の学園祭ステージにて



立命館大学の校友会にて



立命館大学クラシックギタークラブさんと

文・写真 立命館大学フラメンコサークル Sonsonete

スペインのお勧めバル／レストラン

第1回：La Madraza (ラ・マドゥラサ)

スペイン南部アンダルシア州の首都セビージャにあり、ヒッピー、そしてアーティスト的な人達とゲイがたくさん住んでいる Alameda de Hércules (アラメダ・デ・エルクレス広場・通称アラメダ) 地区に位置する。以前はドラッグ中毒患者や娼婦達がうごめいていた場所であったが、市の開発計画後それが一層され現在は、PIJO ALTERNATIVO (富裕層でブランド好きな人達のことをスペインではPIJO (ピホ) と呼ぶ。この場合はPIJO達が好む小綺麗な雰囲気＋多様性文化があるのでこのように呼ばれている。)の雰囲気たっぷりの地区になっている。

アラメダの裏側にあるこのバル・レストランは、ランチタイムは比較的空いているが、夜はオープンと同時に席がうまるので注意。予約不可。大き目のタパスで地中海料理が楽しめる。量は比較的多いので、注文のし過ぎに注意。デザートも手作りでお勧め。ランチメニューは2プレート (それぞれ4種の中から1種ずつ選択)、パン、1ドリンク、デザート (10種類の中より1種選択) で 12.50ユーロ。

● 住所：C/Peris Mencheta, 21, SEVILLA

● 電話：+34 954 90 81 88

注意：上記情報は、2011年11月時点のもので変更する可能性があります。

CHURRASCO DE TERNERA CON
PAPAS ARRUGAS Y MOJO PICÓN.
MOJO PICÓNソースはスペインに
来たら是非お試しを



気軽に1人でも入れるレストラン。
仕事帰りに立ち寄る人も多いはず。

田中 富子 たなかとみこ/Tomiko Tanaka

日本にてフォワード、米通信機会社勤務後、2001年よりセビージャ在住。
2006年個人自営業ビザ獲得。2008年アンダルシア州立ハエン大学にてバージン・オリーブオイル・テイスターにおける大学のエキスパートコースを終了し、オリーブオイル・エキスパートに。現在は、食品輸出入仲介業と執筆業を主に、通訳、翻訳、留学コーディネート等スペインと日本を橋渡し中。
誠実、情熱、感動がモットーの熱い人間です。
HP: www.creapasion.com/ <http://spain.fc2web.com/>

スペインサッカー関連書籍のご紹介

スペインのサッカーは現在世界を席巻していると言っても過言ではない。2010年のワールドカップ初制覇に続き、FCバルセロナが圧倒的な攻撃力で欧州チャンピオンに君臨している。名将モウリーニョ監督のもとレアル・マドリーもバルサに肉薄する勢いを見せている。彼らの活躍に比例してここ最近日本でも多くのスペインサッカー関連書籍を目にするようになってきた。その多くはバルサやレアル・マドリー、スペイン代表をテーマにしたものだが、サッカーの戦術や技術面ばかりでなく、文化や歴史、政治的観点から執筆されたものも少なくない。今回紹介しているのはそういった類の書籍である。

スペインサッカーが好きな方にはぜひ読んでいただきたいのが『バルサとレアル スペインサッカー物語』である。バルサとレアル・マドリーのライバル関係だけでなく、バスクやアンダルシア、カタルーニャ、カスティージャなど、スペイン各地の状況を鋭い視点で考察している。他民族・多言語国家スペインの気質がどのようにサッカーの情熱へ昇華され、クラブ間の強烈なライバル意識につながっているのか、スペインのサッカーというより、むしろスペイン人の生き方について書かれた本であり興味深い内容である。

その他でお勧めしたいのが『バルサ、バルサ、バルサ スペイン現代史とフットボール』である。スペインの現代史に暗い影を落とすフランコ独裁政権時代のことがメインに書かれており、バルサという存在がカタルーニャ地域で歴史的にどのような意味を持っているのかという視点で書かれており、地域

密着の理念を掲げるJリーグや日本サッカーに様々なヒントを投げかけてくれる作品ではないだろうか。

欧州だけでなく、他のスペイン語圏について書かれた作品も少し紹介する。『熱病フットボール』という書の中に、南米のウルグアイについて書かれている章があるが、ウルグアイ人の国民性とサッカーのつながりという一見マニアックともとれる内容である。あまり知られてないかもしれないが、ウルグアイは19.0年の第1回ワールドカップの開催国であり優勝国である。つまり言い換えるならばワールドカップの母国である。そして2030年のワールドカップ開催を目指している国でもある。2030年はワールドカップ100周年にあたる記念の年であり、加えてウルグアイがスペインから独立して200周年にあたる記念の年でもある。開催が実現するか否かは未知数だが、2030年に向けて当書籍でウルグアイという国を予習しておくのはいささか興味深いことではないだろうか。

サッカーというスポーツは人間の歴史の一つの営みであり、それを記した本は一種の歴史小説のようなものである。現在日本にはバルサやバレンシアのジュニア世代の育成を目的としたスクールが設置されているが、単なる技術や戦術ばかりの学習ではなく、ぜひ様々な関連書籍を通して、背景にある文化や気質、歴史を理解していただきたい。そして現地に赴いて多くの仲間とフットボール談義に華を咲かせて、様々な価値観の共有を通して、スペインサッカーの神髄を堪能していただきたい。



バルサ、バルサ、バルサ!

スペイン現代史とフットボール1968~78

【著者】カルラス・サンタカナ・イ・トーラス (著)

山道 佳子 (訳)

【出版社】彩流社

【税込定価】2,625円



バルサとレアル

スペイン・サッカー物語

【著者】フィル・ボール (著)

近藤隆文 (訳)

【出版社】NHK出版

※本書は、出版社に在庫がなく、再販の予定もありません。
図書館等でお探しください。



熱病フットボール

【著者】金子 達仁

【出版社】文藝春秋

【税込定価】1,200円

左頁で紹介した3タイトルだけでなく、スペインのサッカーをテーマにした書籍は数多く出版されており、ここでは、そのごく一部をご紹介します。

本を読むことによって、違った角度からスペインサッカーの魅力を味わえるはず。是非一度手にとってみてください。

※この頁に掲載の情報は、2011年11月現在のもので、予告なく変更される可能性があります。あらかじめご了承ください。



ゴールは偶然の産物ではない
～FCバルセロナ流世界最強マネジメント～
【著者】フェラン・ソリアーノ
【出版社】アチーブメント出版
【税込定価】1,680円



美しいフットボールは生き残る
REAL MADRIDと
F. C. BARCELONAを訪ねて
【著者】坂本 圭【出版社】文芸社
【税込定価】1,470円



サッカー 最強の戦略・戦術論
【著者】西部 謙司
【出版社】PHP研究所
【税込定価】1,575円



グアルディオラのサッカー哲学
【著者】フアン・カルロス・クベイロ/ルノー・ガジャルド (著) 今井 健策 (訳)
【出版社】PHP研究所
【税込定価】1,575円



史上最強バルセロナ
世界最高の育成メソッド
【著者】ジョアン・サルバンス
【出版社】小学館【税込定価】756円



シャビ バルサに生きる
【著者】シャビ(著)、今井健策(翻訳)
【出版社】実業之日本社
【税込定価】1,470円

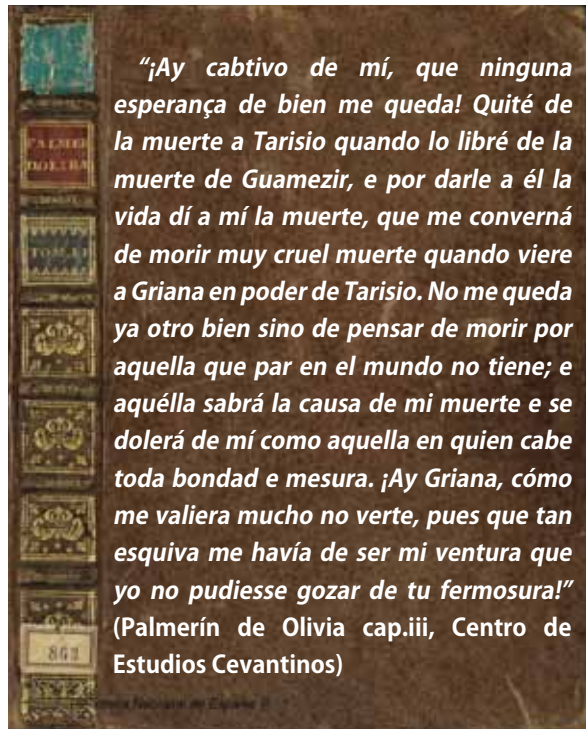


スペイン代表
「美しく勝つ」サッカーのすべて
“無敵艦隊”の強さを徹底分析!
【著者】村松尚登【出版社】河出書房新社
【税込定価】1,575円



ヨハン・クライフ「美しく勝利せよ」
【著者】フリッツ・バーラント/ヘンク・ファン・ドープ (著) 金子達仁 (訳)
【出版社】二見書房
【税込定価】1,600円

騎士道物語を中世スペイン語の原典で楽しむ



「ああ不運なるわが身よ、もはや幸せに見放されてしまった！

タリシオをグアメシールの手から解き放ち死から救ってやったのに、タリシオに命を与えわが身には死を招くことになるなんて。グリアナがタリシオのものになるのを見るくらいなら、無残な死を受け入れる方がましだ。この世に比類なきあの方を想って死を考える以外にもはやわが身の幸せはない。あの方はわたしの死を知って、真心と礼節をわきまえた女性としてわたしのことを痛ましく思ってくれるであろう。ああグリアナよ、あなたに会えないなんてとてもやりきれない。あなたの美貌を拝めぬわが定めなんと酷いことか！」＜筆者拙訳＞

剣と長槍を取れば向かうところ敵なしで数々の武勲と名誉を手にした勇猛果敢な騎士が、こと恋い焦がれる女性が相手だとこのように身も世もなく悲しみに打ちひしがれて、滑稽なまでに気弱となる。16～17世紀の読者、あるいは字が読めなくて語り部を取り囲んで耳を傾けた聴衆は、こうした騎士の言動に生身の人間を見て、物語の展開に胸をわくわくさせきつと尽きせぬ興味を覚えたに違いない。

21世紀を生きる筆者も、主人公が次々と新たな冒険に遭遇する騎士道物語の世界に浸り、時空を超えて5世紀も昔の人たちと同じ楽しみを共有している。実は、2011年4月からボランティア活動として西宮国際交流協会で「中世スペイン語で騎士道物語を読む会」を立ち上げ、月一回6人のメンバーと一緒に原典の現代復刻版をテキストとして輪読している。現役の学生はいないが、家庭の主婦、勤め人、あとは定年退職者で、スペイン語大好きなレベルの高い人たちである。辞書を片手にスペイン語の小説がなんとか読めるレベルを参加の

基準にしている。手始めにいま読んでいる物語が上記に引用した“Palmerín de Olivia”である。スペイン騎士道物語の傑作で、約150年間に亘る騎士道物語の時代を築いた先駆けといわれる“Amadís de Gaula”がサラゴサで出版されたのが1508年。更に騎士道物語の流行に拍車をかけたのが1511年にカスティリャ語で出版された“Tirante El Blanco”で、その原典は1490年にカタルーニャ語で出版されたもの。この“Palmerín”は同じ1511年にサラマンカで上梓された。古さから言えば“Amadís”、“Tirante”とならんで騎士道物語のいわば“古典”のひとつで、16世紀に13版を重ね、出版数では“Amadís”に次いで2番目に多いといわれている。ところがである、ドンキホーテ前篇の第6章に司祭、床屋、学士と家政婦が裏庭で、ドンキホーテの狂気の原因となった蔵書の騎士道物語を嬉々として焚書にする場面があるが、作者セルバンテスは“Amadís”と“Tirante”の両作品については“刑の執行”を思い留まらせるが、哀れにもわれらの“Palmerín”を焰の中へ放り込ませたのである。この第6章には当時世に出ていた主な騎士道物語のタイトルが焚書の審判のため次々と列挙されている。筆者がこの場面に出会った時、ドンキホーテが日夜を分たさず読み耽った挙句に脳みそが干からび気が狂ってしまったとは、一体騎士道物語はいかほど楽しい読み物なのだろうか、これはなんとしても原典で読みたいと思い立ったのが騎士道物語との付き合いの始まりである。

騎士道物語の面白さのひとつは、騎士と貴婦人の道ならぬ恋愛沙汰や人が様々な魔法にかけられことでもあるが、これがカトリック教会の不興を買い、不道德の書の烙印を押される。さらには影響の波及を恐れてインディアスへの持ち出し



「中世スペイン語で騎士道物語を読む会」メンバー

も禁止されたが、実際には長期間の航海の慰みに密かに持ち出され、荒くれのコンキスタドーレスには勇気を与え、一攫千金の夢を抱かせたという。こうした事情はあったものの、スペイン黄金時代を築いた国王カルロスVがこよなく騎士道物語を愛読したこと、更にはイエズス会の創始者イグナシオ・デ・ロヨラが密かにそれを読んでいて、またあのイサベル女王の遺品の中に騎士道物語の本があった、というような記述に出会うと思わず膝を打ちわが意を得たりと嬉しくなるのである。

主人公は武芸百般に通じた美丈夫であるとともに、品格、礼節、勇気、忠誠心、誠実さ、そして利他主義を兼ね備え、高貴な身分の麗しき美貌の貴婦人を虜にする騎士の鑑として描かれている。行動の基本には神への信仰心、主君への奉仕、恋い慕う貴婦人へ命を捧げる潔さがある。騎士叙任式、祝宴、馬上槍試合、トーナメント試合、魔法、巨人、大蛇、果し合い、等々実に多彩な手練手管で読者を楽しませてくれる。次々と新たな冒険に立ち向かい、時には理不尽な悪とも戦うその英雄的な姿に多くの読者は共感を覚え、勧善懲悪の象徴とも見なしていたかも知れない。さらには、当時の熱心な読者の中には、強くて逞しい騎士にあやかるため主人公の名前を自分の息子につける者もいた。

原典を輪読する上での厄介さは、通常の辞書に出ていない語句が随所に出てくることで、筆者が単語と難解な文章の注釈を一覧表にして毎月メンバーに事前提供し、理解を助けるようにしている。輪読の際は、語り部に倣いまず音読してから自分の訳を披露してもらっている。物語の展開を頭の中でイメージしながら解釈に努めれば、入り組んだ文章も意外と理解の糸口が掴めるものである。各章を読み終える毎に拙訳を手渡している。

騎士道物語はシリーズ物、単独物などを合わせ70冊近く発刊されたようだ。“Palmerín”の次には本命の“Amadís”にメンバー全員で挑戦していくことを目指している。虚構の空間とはいうもののつかの間スペイン16~17世紀の騎士道の世界に遊ぶことは至福の時間であり、楽しみが尽きない。

最後に、14世紀初頭に書かれたスペインにおける騎士道物語の嚆矢ともいえる“Libro del cavallero Zifar”「騎士シファールの書」の中の“メントン国王の教え”の一部を引用しておきたい。妻と二人の息子ともども一家がばらばらに離散するが、神の導きで艱難辛苦に翻弄された数奇な運命の後に再会を果たし、メントン国王に上りつめた騎士シファールが、息子たちに将来君主となった際の心得を過去の様々な事例を引き合いに出して諄々と説くくだりである。ここに引用の内容は、欧州諸国の債務危機（スペインも槍玉に挙がっている）で経済が混沌とした現代にもまさにそのまま通じる教訓であり、800年もの昔の先人の知恵に敬意を払いなお戒めとし、この騎士道物語はまた娯楽を超えた処世訓の書でもあることを明記しておきたい。



Biblioteca Nacional de España

出所：スペイン国立図書館

“...E sabet que con tres cosas se afirma la bondad de los omes: la primera es que sea sofrido; la segunda que sea pedonador quando fuere poderoso; la tercera que sea mesurado quando fuere señor. E mios fijos, devedes ser pagados quando ouieredes tanto que vos cunpla, ca el auer ademas dañoso es e lazerio muchas vezes de aquel que lo ha, saluo ende los reys, que lo han mester de guardar para los grandes fechos. E grant mal es el auer ademas commo la pobredat ademas; e porende dizen que lo mejor de todas las cosas es lo mediano. Onde dize vn sabio: «lo mediano touieron los de buena ventura, ca los cabos non son buenos, saluo ende del buen fecho, que ha buen comienço e mejor fin.» E el que quiere ser seguro de non auer mengua, biua con mesura e con prouision, maguer aya poco, e de por Dios maguer sea pobre. E sabet que la mesura aproueze lo poco, e la desmesura gasta lo mucho. E quanto despiende omne en seruicio de Dios e en bien fazer, non es gastado, maguer sea mucho, e quanto quier que sea, non es poco. Pues non dudedes de despende ally do deuedes, e non despendades poco nin mucho alli do non deuedes...” <Castigos del Rey de Menton, Libro del Caballero Zifar, Cátedra>



出所：スペイン国立図書館

「…よいか、三つのことが人の器量を決めるのだ。一つは艱難に耐えること、二つには権力を握ったら人に寛容であること、三つには君主になれば節度を持つこと。倅たちよ、おまえたちがこれで充分だと思われる財産を手にしたなら、それで満足するがよい。というのも、過剰な財産は災いの元であり、その所有主に往々にして苦難を及ぼすからだ。但し、国王は例外で、それは偉大な勲功をたてるには財産を持つておくことが必要だからだ。さらに、過剰な財産と極度の貧困も大きな罪悪だ。だからよく言うのではないか、物事でいちばんよいのは中庸だと。ある賢人も言っている『幸運なる者は、両極端は好ましくないとし、中庸を心がけの。ただし、滑り出し上々で結末がなお素晴らしい立派な勲功は別だ』と。どうしても財産を減らしたくない者は、財産が僅かで神の御心により貧しくとも節制と蓄えを心掛けて生きることだ。よいか、節制とはわずかな物を活用することで、不節制とは多額の無駄遣いということだ。ただ、人が神への奉仕や善行に金銭を使う限り、多額であってもこれは浪費ではなく、また、いくら使ってもそれは素晴らしいことなのだ。だから、おまえたちは使うべきところで金銭を使うのにためらってはいけないし、使うべきでないところでは多寡に拘わらずいっさい使ってはいけないのだ…」

<筆者拙訳>
文 伊藤嘉太郎



伊藤嘉太郎
いとうよしたろう / Yoshitaro Ito

神戸市外国語大学イスパニア学科卒
大手電機メーカーで長年中南米海外事業に従事
現在京都外国語大学非常勤講師(ビジネススペイン語担当)
京都セルバンテス懇話会会員

✂ キリトリ線

日本とスペインをつなぐ無料スペイン情報誌 [アクエドクト]
acueducto 定期購読申込書
La revista española en Japón

スペイン情報誌acueductoの定期購読は、ファックス、郵送、E-mailでお申し込みいただけます。
以下のフォームに記入し、ファックスまたは郵送でご送付いただくか、必要項目をメールでご送付ください。

氏名 _____ 必要部数 _____ 部 _____

電話番号 () _____

住所 〒 _____

- お申込先
- ① 郵送の場合 大阪市北区梅田2-5-8
千代田ビル西別館 2F 有) ADELANTE
 - ② ファックスの場合 06-6346-5554
 - ③ E-mailの場合 info@acueducto.jp

下山静香のCD ～スペインの響き～



独特の響きをかもし出す総
檜づくりのホールで収録、
＜アルベニス没後100年/
生誕150年＞を記念した初
のオールアルベニス・アル
バム。

4th album

「Homenaje a Isaac Albéniz アルベニス名曲集」
MF22803 (Molto fine) 2,600円

マドリッドの夜（７）

レストランは私がマドリッド駐在時代からゆきつけの「四季」にした。スペイン語では「クアットロ・エスタシオネス」で、住所はPaseo San Francisco de Salesに交差するGeneral Ibáñez de Ibero, 5であった。このレストランはなかなか感じの良い店であり、サービス、料理、お酒ともにまずまずであった。しかも私がリザーブするときはずも一番奥の静かなテーブルを確保してくれる。

エウヘニアは目の覚めるような緑のドレスで現れた。本職がバレリーナだけあり何を着ても決まってしまう。この夜はひとときその美しいドレスと鍛えられた肉体とが共鳴するような華やかさであった。ボーイが静かに流れるように二人を一番奥のテーブルに案内する。さっそくワインで乾杯。私はこのときリベラ・デル・ドゥエロの最高のワイン、ベガ・シシリアのウニコを注文した。奥床しくも軽やかなこのワインは特別なケースでない限り注文はできない。

乾杯してから彼女が結構ワインがゆけることが分かった。ひょっとしてワインの造詣は私以上であったかも知れない。この夜は昨日に引き続き、更に打ち解けて話をする事ができた。ダンスの練習の厳しさや、1年の大半を各国の公演旅行に費やしていることや、それまで私には未知の世界であったバレエについて種々新しい知識を吹き込んでくれた。それからスペインの音楽界のこと、日本とスペインの詩壇のこと、ロサリアのこと、ベッケルのこと、二人の話は弾み止まるところを知らない。私がヨーロッパ女性を好ましく思う点は、この会話の面白さである。知的な女性であればあるほど話は発展し、ユーモアがそこに織り込まれ、煌びやかな男と女の世界が花開く。

余談ではあるが、知的なヨーロッパ女性の共通するところでは「自分が今生きていることの意味」を理解していることである。これまでに知己を得た女性は、外交官夫人もあり、政府の要人もあり、詩人・作家もあり、画家もあり、国際ジャー

ナリストもあり、大学教授もいる。みなさん「人生の短さについて」よく知っている。そのあたりの人生観については私の尊敬する野々山真輝帆さんが『あまりにスペイン的な男と女』（毎日新聞社）の中で、「イサベル・プレイスレル」と「アルバ公爵夫人」の例で巧みに表現している。また、最近読んだ『結婚しても愛を楽しむフランス女たち、結婚したら愛を忘れる日本の女たち』（吉村葉子著；双葉社）という長い題名の本では、ヨーロッパ（フランス）女性がいかに「あるべき姿の女性」というものを知っているか、そしてそれをいかに演じているか詳しく述べている。

さて、気がつけばもう午前1時を回っていた。そこでやっと私は、「今日は本当に楽しい一夜でしたね」と言って緞帳の下りのサインを送った。まだ会話の楽しみたい様子の彼女ではあったが、私自身に旅の疲れを感じ始めていた。タクシーを呼びアルフォンソ13世通りにある彼女の自宅まで送っていった。幸せな充実感に満たされながら、大きな門構えのその家の前で再会の約束と軽いキスをして別れることとなった。彼女のあの空を翔るような後ろ姿が門の中に消えるのを見届け、私は待たしてあったタクシーで我がホテルへと向った。どっと会話の疲れと心地よいワインの酔いが回ってきたのであった。

翌朝起きてみるとなにか贈り物が届けられていた。VHSのビデオテープであった。それは彼女からの贈り物であった。彼女のダンスが録画されたビデオであり、日本に帰ってから見てくださいとメモが入っていた。慌ててお礼の電話を彼女の自宅に入れた。ところがすでに公演のため今朝早くブルゴスに立った後であった。日本に帰ってきて心を込めて彼女に礼状を書いたのは勿論である。

（つづく）

文・写真 桑原真夫



桑原真夫

くわばらまさお / Masao Kuwabara

詩人・エッセイスト 広島県鞆の浦出身。

1977年よりほぼ毎年スペインを訪問。1984年から1989年まで銀行員としてマドリッドに駐在。ヨーロッパ在住約14年。

スペイン関係主要著書：『斜めから見たスペイン』（山手書房新社）、『それぞれのスペイン』（共編著）（山手書房新社）、『スペインの素顔』（河出書房新社）、『スペインとは？』（沖積舎）、『ロサリア・デ・カストロという詩人』（沖積舎）、『我が母へ（ロサリア・デ・カストロ）』（沖積舎）、『ガリシアの歌・上巻』（行路社）、『ガリシアを知るための50章』（明石書店、共編著）、『花へ』（写真詩集）（山手書房新社）他多数。



ガリシアの歌 上・下

【著者】ロサリア・デカストロ【著】 桑原真夫【翻訳】

【出版社】行路社

【ISBN】9784875344193(上), 9784875344308(下)

【税込定価】2,520円(各巻)

プラド美術館所蔵 ゴヤ 光と影 展

開催日：2011年10月22日-2012年1月29日

場所：国立西洋美術館 / 時間：09:30h-17:30h

プラド美術館の所蔵コレクションから巨匠ゴヤの作品を披露。着衣のマハやEl Quitasolを展示。

詳細については：<http://www.nmwa.go.jp/>

CATALAN BREEZE 展

開催日：2011年10月22日-12月11日

場所：北井画廊 東京 / 時間：12:00h - 19:00h

バルセロナのアーティストXavier Visa、Ivo Sansの作品展。Xavier Visaはバルセロナの日常をカメラで撮影し、写真のような空気感を油彩画に転換する作品を手掛ける。音楽家でもあるIvo SansはR.Schumannの音楽に触発された立体作品を発表する。

詳細については：<http://www.kitaikikaku.co.jp/home/onload.html>

「建築、アートがつくりだす新しい環境-これからの感じ」展

開催日：2011年10月29日-2012年1月15日

場所：東京都現代美術館 / 時間：10:00h-18:00h

建築の最新の動向を紹介し、空間と社会との関連性を表現。国際的に活躍するチームや若き建築家のスタジオのインスタレーションを展示。

スペインのSelgascano, AMID.cero9 y (Estudio Ensemble)参加あり。

詳細については：<http://www.mot-art-museum.jp/>

磯江毅=グスタボ・イソエ

開催日：10月22日から12月18日まで

場所：奈良県立美術館 / 時間：9:00h - 17:00h

マドリッド・リアリズムの異才作品展。

詳細については：

http://www.pref.nara.jp/dd_aspx_itemid-71445.htm#itemid71445

山口静治展

—優しきまなざし ドン・キホーテ—



希望に向かって突き進む勇敢で優しい騎士、ドン・キホーテ。おかしくも哀しいドン・キホーテを通して描いた心の風景。
油絵、デッサンを約20点展示。

2012年1月11日(水)～1月17日(火)
最終日は17時閉場
大丸神戸店7階美術画廊
神戸市中央区明石町40
(JR元町、阪神元町駅下車南へ2分)

スペインフェア

6月 9日(土) 11:30-21:00
10日(日) 10:00-19:30

2012



大阪・梅田(場所未定)
問合せ：06-6346-5554(スペイン文化協会)
詳細は、以下URLで公開予定!

<http://www.spainbunka.jp/spainfair>

入場無料!

現在アデランテでは出展・協賛企業を募集しております。

Festival de cine y música Duende

映画・音楽フェスティバル「ドゥエンデ」

Del miércoles 30 de noviembre
al sábado 3 de diciembre

2011. 11.30 水 — 12.3 土

Lugar:
Instituto Cervantes de Tokio

Reserva:
Entrada gratuita.
Se ruega confirmación en
<http://reservas.palabras.jp/es/>

Idioma:
Español con subtítulos en japonés

会場:
セルバンテス文化センター東京

予約:
入場無料、要予約。
参加ご希望の方は
以下ウェブサイトよりお申込みください。
<http://reservas.palabras.jp/ja/>

言語:
スペイン語 (日本語字幕付)



ラテンのリズムとメロディーを堪能する映画と音楽の祭典。
サルサ、フラメンコ、タンゴ、ラテンジャズ、そしてオペラ、
スペイン語圏の豊かな音楽世界を廻る旅に皆様をご招待
します。映画・ドキュメンタリーの上映だけでなく、各ジャンルの
エキスパートによるトーク、そして映画にちなんだ音楽の
ライブ演奏が予定されています。

Informaciones actualizadas en
最新情報は

<http://palabras.jp/duende>

30 de noviembre, miércoles

18:00 | Charla: Rodrigo H. Vila
18:30 | Documental: "Mercedes Sosa: Cantaora, un viaje íntimo"
20:10 | Inauguración exposición: Tango Oriental

1 de diciembre, jueves

18:30 | Documental: "Diva por accidente"
19:30 | Charla: Lydia Bendersky
20:00 | Recital Lírico

2 de diciembre, viernes

18:30 | Charla: Masakazu Kitanaka
19:00 | Documental: "Francisco Sánchez - Paco de Lucía"
20:35 | Concierto: Hermanos Ikegawa

3 de diciembre, sábado

14:00 | Documental: "Tocar y luchar"
15:20 | Charla y música: Maurice Reyna

16:45 | Documental: "Historias de la música cubana"
17:40 | Charla: Pedro Valle

18:50 | Película: "Chico y Rita"
20:25 | Concierto: Hermanos Valle (Salsa)

La programación está sujeta a cambios.

11月30日(水)

18:00 | トーク: ロドリゴ・ビラ監督
18:30 | ドキュメンタリー『メルセデス・ソーサ: 歌手、心の旅』
20:10 | 展覧会「タンゴ・オリエンタル」オープニング

12月1日(木)

18:30 | ドキュメンタリー『偶然が生んだディーバ』
19:30 | トーク: リディア・ベンデルスカイ監督
20:00 | オペラコンサート

12月2日(金)

18:30 | トーク: 北中 正和
19:00 | ドキュメンタリー『フランシスコ・サンチェス - パコ・デルシア』
20:35 | コンサート: 池川兄弟 (フラメンコギター)

12月3日(土)

14:00 | ドキュメンタリー『奏でて戦う』
15:20 | トーク&音楽: モーリス・レイナ

16:45 | ドキュメンタリー『キューバ音楽の歴史』
17:40 | トーク: ペドロ・バジェ

18:50 | 映画: 『チコとリタ』
20:25 | コンサート: エルマノス・バジェ (サルサ)

プログラムの内容は変更になる場合があります。予めご了承ください。



「AVE」 スペイン語オンラインコース

インターネットを使って好きな時に好きな場所で
スペイン語が勉強できるコースです。

詳しい情報は:

<http://aulavirtual.jp>



Diplomas de Español
como Lengua Extranjera

外国語としてのスペイン語検定試験 スペイン文部省認定証 DELE

DELE(デレ)は、スペイン文部省の下に、世界100か国以上で実施されている、信頼性の高い
スペイン語能力試験です。スペイン国外ではセルバンテス文化センターが実施しています。

詳しい情報は:

<http://www.dele.jp>



日西商業会議所 Cámara de Comercio Hispano Japonesa

マドリードにオフィスを構える日西商業会議所(Cámara de Comercio Hispano Japonesa)は、日本とスペイン間の商業関係促進のために1954年に設立された民間団体です。会員をはじめとして顧客へのビジネスサポート、イベント開催、各種講座の開講、スペイン情報の発信、各種出版など、日本・スペイン間の理解、関係改善に向けた様々な活動をおこなっています。ここでは、これらの活動の一部をご紹介します。



Vinalitur - スペインワイン・食品・観光展 好評のうちに幕を閉じる

去る10月11日、12日、東京にて、日西商業会議所主催、スペインワイン・食材・観光商品展示会VINALITUR 2011が開催されました。

会場はウエスティンホテル東京。日西商業会議所が関連業者のためにスペイン各地からセレクトした商品を展示しました。ワイン関連では7社のワイン、スパークリングワインを、食材では、チーズ、オリーブオイル、ハチミツ、鴨製品、野菜・魚介類の瓶詰缶製品、エスカルゴの加工品など、6社の商品を展示、紹介。その他、観光関連では、マドリードのガストロノミー及びフラメンコショーのレストラン情報を展示しました。



スペイン情報誌 季刊『スペイン広報』

1985年創刊の『スペイン広報』は、スペインの文化、経済をオールカラー、豊富な写真でお伝えする日本語の季刊誌。日本ではあまり知られていない地域の魅力や祭り、アートの他、奥深いスペイングルメ情報も満載。

www.camarajaponesa.es/jpn/?cat=5



お問い合わせ先

日西商業会議所 / Cámara de Comercio Hispano Japonesa
www.camarajaponesa.es/jpn

camara@camarajaponesa.es / Tel: (+34) 91 594 3114
San Bernardo, 97-99 (Edificio Colomina, 3ºF)
28015 MADRID - Spain





日本初！ 日本人のための詳しい解説つきDELE試験問題集

書名：DELE試験対策問題集 A1/A2 (CD2枚付)
ISBN：978-4-9905766-0-8
定価：3600円(税抜き)
出版元：インタースペイン・ブックサービス
著者：
●坂東 省次 京都外国語大学教授
●ダニエル・アリエタ 立命館大学嘱託講師 DELE試験員(全レベル)
●高木 和子 有限会社インタースペイン代表取締役

ご注文はセルバンテス書店まで
03-6424-4335 interspain.ocn.ne.jp

スペイン語作文の方法(表現編)

小池和良 著 四六変形判 290頁 CD付 定価2,730円

課題文139・練習417題を訳しながら、文脈に応じた適切な語彙や表現を選択した上でスペイン語を書く力を養成。実践的な解説と豊富な例文によって、語彙の選択のミスを防ぐ語感を習得。課題文139の日本語・スペイン語解答例を対訳形式でCDに収録。本書にでている語彙や表現を網羅した詳しいスペイン語・日本語索引付。



〒162-0805 東京都新宿区矢来町106
Tel. (03)3267-8531 <http://www.daisan-shobo.co.jp>

第三書房

El español abre las puertas de tu futuro
スペイン語はあなたの未来を開く

創立25周年キャンペーン! 実施中!

DELE対策 コース	スペイン語 会話コース	映画サロン
ビジネス スペイン語 コース	通訳養成 コース	



日本スペイン文化経済交流センター エクステンション
www.extensionspainjapan.com
Tel. 06-6251-2686 exosaka@osb.att.ne.jp



確かな技術と音楽する心を育てる

吉川二郎ギター教室

初心者歓迎!

コンサートフラメンコギター
クラシックギター & ギタルパ

花屋敷教室(宝塚市)

天満橋教室(大阪市)

東京教室(月1回)

静岡教室(月1回)

ギターサークルJIRO(富士市)

お問合せ・入会のお申込みは

TEL&FAX.072-793-8684

詳しくはホームページで

吉川二郎 検索

スペイン語学習コース

スペイン語学習
各種アクティビティ
宿泊先

通年、年齢不問、レベル別クラス(初級～上級、コース、個人授業 他)

COLEGIO DELIBES



“VICENTE DEL BOSQUE” プログラム

スペイン語学習 + サッカー 宿泊先

7月～8月



Avda. Italia, 21
37007 Salamanca (España)
delibes@colegiodelibes.com
www.colegiodelibes.com

Flamenco Studio MIGUELON

現役で活躍中のプロが講師をする
フラメンコ教室



- 入会金 5,250円
 - ダンス(バイレ)クラス(グループ)
60分×4回 10,500円
 - ギター・歌・パルマクラス(個人)
40分×3回 10,500円
- …詳しくはお問い合わせ下さい。

石橋スタジオ

(主にダンスクラス)
池田市井口堂 1-9-3
センチュリーショウエイ VII1 F

梅田スタジオ

(ギター・歌・パルマクラス)
大阪市北区太融寺町 8-10
梅田高速ビル 604

E-mail

miguelon@nifty.com

WEB

<http://www.miguelon.jp/>

TEL 072-760-4858

フラメンコスタジオミゲロン

Flamenco Studio
MIGUELON



¡Habla español,
más y mejor!



Pamplona (España)
Tel.: +34 948 383 579
info@plsi.es

www.pamplonaspainishinstitute.com



奈良・大和路の思い出に…

奈良伝統工芸品・海外向民芸品



本店



東向店

三楽洞 本店
〒630-8218 奈良市梅井町7
(三条通り猿沢池西すぐ)
TEL 0742-22-2075 FAX 0742-22-9823

三楽洞 東向店
〒630-8215 奈良市東向中町16
(東向商店街中ほど)
TEL 0742-23-8333 FAX 0742-22-9823

ホームページ <http://www.sanrakudo.co.jp>
E-mail info@sanrakudo.com

スペインタイルの総付け教室 & 手作りタイル販売 スペインタイルアート工房

Tokyo/Osaka/Valencia (Spain)



大阪市西区南堀江 1-20-23-1003

Tel & Fax 06-4390-6545

Email: spaintile@japan.email.ne.jp

<http://homepage1.nifty.com/spaintile/>

スペイン菓子
サン・オチョ

〒851-2106
長崎県西彼杵郡時津町左底郷 290-1
TEL 095-860-8180 FAX 095-860-8181

スペイン語の本 & 雑貨
www.adelante-shop.jp

- ・学習テキスト
- ・文法問題集
- ・レベル別副読本
- ・DELE試験対策教材
- ・絵本、小説

など各種取り扱っています。
送料全国一律280円。8,000円以上のお買い上げで送料無料!

〒530-0001
大阪市北区梅田2-5-8
千代田ビル西別館 2F
TEL/FAX: 06-6346-5554
info@adelanteshop.jp

スペイン語ワールドで — スペイン語 を学ぼう

スペインとラテンアメリカ に広がる24の校舎

- ・ 毎週月曜日開校
- ・ 入門から上級まで全レベル対象
- ・ あらゆるニーズに対応できる20のコース
(長期&短期)
- ・ 1クラス平均5名、最高10名の少人数制
- ・ グループには特別料金を適用
- ・ スペイン語講師トレーニングコース
- ・ 5歳から18歳対象のサマーキャンプ
参加者の60%はスペイン人学生
- ・ きめ細かなサービス、65カ国から集まる
学生、最新の設備

エンフォレックスで
スペイン語ワールドを
体験しよう！



Centro Acreditado

[www.enforex.com / japanese](http://www.enforex.com/japanese)



ヘッドオフィス

Alberto Aguilera, 26
28015 Madrid - España
Tel.: +34 91 594 37 76
Fax: +34 91 594 51 59
Email: info@enforex.es



Enforex

アリカンテ・バルセロナ・カディス・グラナダ・マドリード・マラガ・マルベージャ・バンブローナ・サラマンカ・セビージャ・テネリフェ・バレンシア・(スペイン)
アルゼンチン・ボリビア・チリ・コスタリカ・キューバ・ドミニカ共和国・エクアドル・ガテマラ・メキシコ・ペルー・(ラテンアメリカ)



don Quijote

in-country Spanish language courses

スペイン語を生きよう

スペイン&ラテンアメリカ



Centro Acreditado

- ・ 11カ国に35のスペイン語学校
- ・ 25以上のコース: インテンシブコース、DELE対策コース、フラメンココース、プレミアムコース、インターンシップなど
- ・ 1週間から40週間まで、全レベル対象、毎週月曜日スタート、少人数クラス
- ・ ホームステイ、シェアアパート、レジデンス

11カ国にある35のスペイン語学校

スペイン

アリカンテ マルベージャ
バルセロナ サラマンカ
カディス セビージャ
グラナダ テネリフェ
マドリッド バレンシア

メキシコ

グアナフアト
オアハカ
プラヤ デル カルメン
プエルト バジャルタ

ラテンアメリカ

アルゼンチン エクアドル
ボリビア ガテマラ
チリ メキシコ
コスタリカ ペルー
キューバ ドミニカ共和国

お問い合わせ、資料請求は
ヘッドオフィス

Calle Placentinos, 2

37008 Salamanca - España

Tel.: +34 923 26 88 60

Fax: +34 923 26 88 15

infocentral@donquijote.org

www.donquijote.org



スペイン語の本 & 雑貨

www.

adelante.jp
shop

学習テキスト、文法問題集、レベル別副読本、
D.E.L.E. 試験対策本、絵本など
各種取り扱っています。送料全国一律280円
8,000円以上のお買い上げで送料無料!



スペイン語

ADELANTE

www.adelante.jp

TEL/FAX: 06-6346-5554
email: info@adelante.jp

「私のスペイン語、通じた♪」を実感

- ・ネイティブ講師だからプチ留学気分で自然なスペイン語をマスター
- ・定員6名までの少人数制グループレッスン
- ・ヨーロッパ共通参照枠CEFのレベルに即したカリキュラム
- ・振替ができるので忙しくても安心
- ・楽しい交流パーティーや文化イベントでスペイン語仲間がいっぱい
- ・目的やペースに合わせて選べるコース
(一般・旅行・商業・DELE検定対策・プライベート・
スペイン語の本を読むコースetc.)

www.adelante.jp

スペイン語教室 ADELANTE
〒530-0001 大阪市北区梅田 2-5-8 千代田ビル西別館 2F
TEL/FAX: 06-6346-5554
E-mail: info@adelante.jp・http://www.adelante.jp

無料体験レッスン随時実施中!
お気軽にお問い合わせください。



www.spainryugaku.jp

スペイン留学.jp は
スペイン留学サポートのエキスパート。

【お問合せ】 TEL: 06-6346-5554 / email: info@spainryugaku.jp

スペイン & 中南米への留学相談、手続き代行無料サービス

安心して出発できるよう、全力でサポートいたします

1週間のプチ留学から長期プログラムまで、色々な目的に合わせて豊富なラインアップ。あなたにぴったりの留学スタイル選び、入学手続きまで無料でお手伝いいたします。語学留学、シニア向けのロングステイプログラム、スペイン語+フラメンコ、スペイン料理、スペインワイン講座、など楽しいプログラムもあります。

スペイン全土、メキシコ・チリ・ペルーなど数多くの語学学校と提携

言葉に自信がなく、学校とのやり取りが不安な方も大丈夫。
入学申請書類の作成や必要な書類の送付、留学費用の海外送金などは全て代行いたします。

- ・学校への出願サポート
- ・学生ビザ申請書記入のお手伝い
- ・留学費用の海外送金
- ・ホームステイ、寮、又はシェアフラット、アパート等の申込み
- ・空港出迎えサービスなど、
各種オプションサービスの依頼代行

